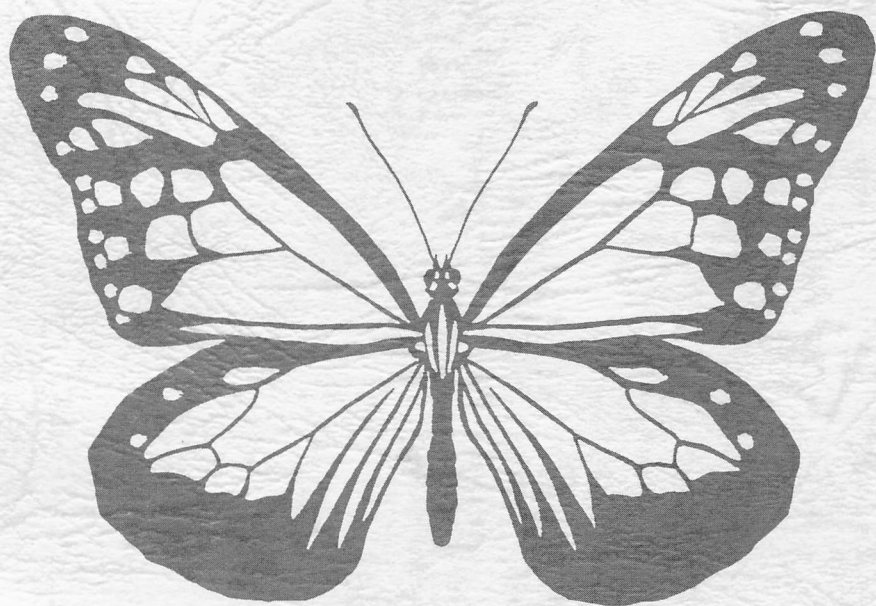


IRATSUME

1999

No.23



但馬むしの会

◆◆ 目 次 ◆◆

永幡 嘉之：但馬海岸のカミキリムシ	1
高橋 寿郎：兵庫県ハマシ(3) (兵庫県甲虫相資料・350)	5
高橋 寿郎：記録による但馬の甲虫相 (兵庫県甲虫相資料・353)	18
上田 尚志：六方田圃のアカトンボ	30
佐藤 邦夫：但馬地方のカミキリムシ (V)	32
山本 一幸：和田山町で採集されたカトウツケオグモ	34
谷角 素彦：来日岳のコルリクワガタ追加記録	34

表紙：アサギマダラ
足立義弘・画

但馬海岸のカミキリムシ

永幡 嘉之

1. はじめに

筆者が鳥取に在住した4年間、但馬には実によく足を運んだが、なかでも最も関心を持ったのは、海岸部のカミキリムシ相であった。最初に訪れた年に、まだ山陰本線で浜坂駅に通っていた頃に、海に突き出した小さな半島にすぎない城山でルリボシカミキリやイッシキキモンカミキリ、ヤノトラカミキリを発見して気をよくしたことが、その後通い詰める大きなきっかけとなった。その後も一般には山地性とされている虫たちが、海岸で何度も姿を見せてくれた。

ところで、分布上興味深いとしてこれまでにとり上げられてきたカミキリムシも、必ずしも正しく論じられてきたとは言い難い。たとえば、暖地性（あるいは沿海性）の種としてしばしばイッシキキモンカミキリやフタオビミドリトラカミキリの名前が挙げられるが、これらは巨視的に見れば確かに海岸に沿った分布をしているものの、兵庫県においては但馬海岸のみならず、氷ノ山や三室山山系にまで広く分布している種である。一方、それらと同時に名前が挙がるホシベニカミキリは、確かに海岸部から遠くない地域のみ分布に限られる。

昆虫の調査は、植物と比較するとより多くの回数を要するほか、地域間の定量的な比較も難しい。調査地域において、いったいどの種が山地性、あるいは沿海性の表徴種となり得るかは、丹念なファウナの調査によってのみ知ることができるだろう。そのような観点から、これまでに多くのデータが集積されてきた氷ノ山や扇ノ山においてはようやく論じる基礎が出来上がったと言ってよいが、但馬海岸についてはこれまでに断片的な採集記録の報告があるのみであった。

筆者は本稿において、但馬海岸のカミキリムシの地理的特徴を論じ、さらに人為的作用が現在のファウナの形成に与えてきた影響についても考察を試みた。本文に先立ち、これまで同地域のカミキリムシ相の解明に大きく寄与された磯野昌弘、佐藤邦夫両氏に敬意を表したい。また、筆者が同地域に通い始めるよりも前から、香住町などの海岸部の調査を手がけておられた阿部利一氏から受けた刺激と影響が非常に大きかつ

たことを附記し、深く謝意を表する。

2. 調査地および方法

今回の調査範囲は、ファウナの解明度が比較的高いと考えられる、浜坂町城山（標高0～190m）・観音山（標高0～245m）の周辺とした。表1に、佐藤（1996）を基にしてこれまでの記録を○で表示した。オリジナルなデータは、ほとんどが従来の本誌上に報告されているので、ここでは再録しなかった。城山・観音山を除く浜坂町海岸部（居組、三尾、和田など、山陰本線よりも海岸寄りの地域と、宇都野神社や味原など）で記録がある種については、その他という項目を設けた。観音山の項には、清富として記録されたものも含んでいる。ごく一部について、未発表記録も含めたが、それらは△で示した。

両地共に、1991～1994年の間に何度となく調査に訪れたが、城山の方が調査の回数が多く、また採集方法も多岐にわたるため、調査精度も観音山と比較すると高くなっている。

3. 結果および考察

3-1. 但馬海岸のカミキリムシ相の地理的な特徴

浜坂町海岸部で128種のカミキリムシが記録された。但馬の他の地域と比較すると、扇ノ山で162種が記録されているので、ブナ帯よりも種類数の点では少ない。

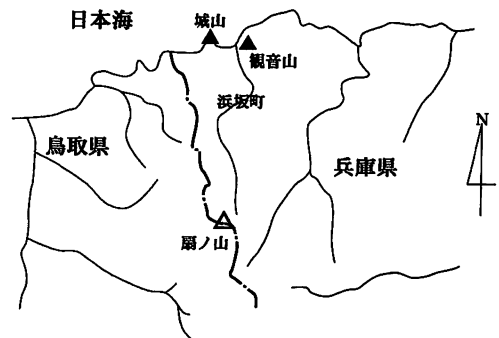


図1 調査地概念図

また、扇ノ山との共通種は73種であり、海岸部にはブナ帯では記録されていない種が比較的多く分布していることが分かる。記録された種のなかで、周辺地域における分布状態から、表徴種となり得るものを以下のように挙げた。

○暖地性の種

扇ノ山や氷ノ山からの記録がないか、もしくは極めて少ないもので、但馬海岸には広く分布しているもの。ベーツヒラタ、ベーツヤサ、ズマルトラ、ヨツスジトラ、シロスジドウボソ、ホシベニ、クロオビトゲムネ。

○山地性の種

本来、ブナ林に分布の中心があると考えられ、県内では但馬海岸の他には低標高地での記録がないか、もしくは低地では極めて少ないもの。

モモグロハナ、ヒナルリハナ、チャイロヒメハナ、ハネビロハナ、ルリボシ、キンケトラ、マツシタトラ、エゾナガヒゲ、フタモンアラゲ、ホウノキトゲバ、オニグルミノキモン、フチグロヤツボシ。

但馬海岸のカミキリムシ相の特徴として、上記のように暖地性の種が豊かに分布する一方で、山地性の種が少なからず分布しており、両者が混在した独自のファウナを形成していることが挙げられる。この地域で山地性の種が海岸部まで分布する現象は植物でもよく知られ、村田（1989）は異常低位分布という用語を用いているが、その要因として挙げられている温度や湿度については動植物を通じていずれも推測の域を出ず、明確に論じられたことはない。いずれにせよ、気象条件によってもたらされていることは確実であろう。

暖地性の種は、中国地方から近畿地方にかけては瀬戸内海沿岸に分布を欠く種が多い。これは、瀬戸内地方が非常に乾燥し、また人為作用も活発であったことから、良好な極相林がほとんど残されていないことも要因として挙げられるが、カミキリムシの分布拡大の手段としての海流の影響も表れていると考えられる。上記に表徴種として挙げた種のうち、ズマルトラ、ヨツスジトラは兵庫県の瀬戸内地方にも局地的に多産するが、ベーツヤサ、ベーツヒラタ、クロオビトゲムネは極めて少なく、ホシベニは天然分布の例は知られていない。また氷ノ山周辺にも分布することから表徴種としては挙げなかったヤノトラ、フタオビミドリトラ、イッシキキモン、キバナアラゲも、瀬戸内地方の海岸部からは記録がない。これらの日本海側に偏った分布をもつ種は、山陰地方を特徴づける要素であると考えられる。

次に山地性の種について、扇ノ山と比較してみると、

まずハナカミキリ亜科で記録された種数が少ない。特に、*Pidonia*属は、丹念な調査にもかかわらず、チャイロヒメハナ1種が得られたのみであった。山屋・片桐（1985）は、ブナ林の保存度に関する指標として、ハナカミキリ亜科の優占率を提唱したが、これを今回の調査地にあてはめると、但馬海岸では128種中ハナカミキリ亜科は14種で優占率は10.9%であり、扇ノ山の162種中46種で優占率が28.4%という数字と比較すると、海岸部において同亜科の分布が大きく欠落していることが読み取れる。*Pidonia*属についてみると、海岸部から遠くない久斗山山系の標高400~500m付近においても4種を採集していることから、垂直分布の下限が観音山にも達していないと捉えることができる。

3-2. 人為作用と現生のカミキリムシ相との関係

本項では、人為作用による攪乱とファウナとの対応を見てみたい。

観音山は、頂上に寺院があり、ごく狭い範囲ながらスダジイとモミを中心にした極相林が残されている。それ以外の大部分は二次林である。一方、城山は全体が比較的若い二次林で覆われており、人為的な攪乱が繰り返されてきた環境である。これは、城山の中でも比較的樹林の発達した部分においてさえカラスザンショウ、エノキなどの先駆樹種が多いことから裏付けられる。

観音山で記録があり、城山では記録がない種は表1によれば20種あるが、その中で、発生時期に十分に調査したが城山には産する可能性が低いと思われる種は、ケブカヒラタ、チャイロヒメハナ、オオハナ、ハネビロハナ、スギノアカネトラ、マツシタトラの6種であり、その理由としては、1)食樹が城山には著しく少ないことによるもの（スギノアカネトラ）、2)大径木のみで発生することから、樹齢の若い城山には生息できないことによるもの（ケブカヒラタ、オオハナ、マツシタトラ）などが考えられる。また、チャイロヒメハナおよびハネビロハナについても、おそらく大径木の林に依存しているのではないかと考えられる一方で、標高の低い城山では垂直分布の下限に達していない可能性もある。

反対に、城山で記録がありながら観音山で記録のない種は40種に上るが、これには城山での調査回数が多く、また遊歩道もしっかりして調査が容易であることから解明度が高いことも考慮せねばならない。この中で、観音山に産する可能性が低いものとしては、トラ

表1 但馬海岸におけるカミキリムシの分布記録

亜科名	種名	城山	観音山	その他
ノコギリカミキリ亜科	ベーツヒラタ			○
	ウスバ	○		○
	ニセノコギリ		○	○
	ノコギリ	○		○
マルクビカミキリ亜科	ケブカヒラタ		○	
	ツシマムナクボ	○		
	ムナクボサビ	○		○
クロカミキリ亜科	クロ	○		○
ハナカミキリ亜科	モモグロハナ	○		
	クビアカドウガネハナ		○	
	キバネニセハムシハナ		○	
	ヒナリハナ	○		
	チャイロヒメハナ		○	○
	ツヤケシハナ	○	○	○
	アカハナ		○	
	オオハナ		○	
	ヤツボシハナ	○	○	○
	ムネアカクロハナ		○	○
	ハネビロハナ		○	
	ヨツスジハナ	○	○	○
	オオヨツスジハナ	○	○	○
	ベニバハナ	○		
カミキリ亜科	アオスジ	○		○
	ベーツヤサ	○	○	○
	ミヤマ			○
	キマダラヤマ			○
	トビイロ	○	○	○
	ヨツボシ			○
	アメイロ	○		
	ヨコヤマヒメ			○
	カッコウメダカ	○		
	タイワンメダカ	○		
	トワダムモンメダカ	○	○	
	コジマヒゲナガコバネ	○	○	
	ルリボシ	○		○
	クスベニ	○	○	
	ミドリ	○	○	○
	スギ			○
	ヒメスギ			○
	アカネ		○	
	ウスイロトラ		○	○
	クビアカトラ	○		○
	ブドウトラ			○
	ズマルトラ	○	○	○
	トラフ	○		
	ヤノトラ	○		○
	シラケトラ	○	○	
	キンケトラ	○	○	○
	キスジトラ			○
	タケトラ			○
	エグリトラ	○	○	○
	フタオビミドリトラ	○		○
	ヨツスジトラ	○		
	ヒメクロトラ	○	○	
	トウキョウトラ		○	
	キイロトラ	○	○	
	トゲヒゲトラ	○	○	○
	スギノアカネトラ		○	
	マツシタトラ		○	
	ベニ	○	○	○
	ホタル	○	○	○

亜科名	種名	城山	観音山	その他
フトカミキリ亜科	シロオビゴマフ	○		
	ゴマフ	○		
	ヨツボシシロオビゴマフ		○	
	ナガゴマフ	○	○	○
	カタシロゴマフ	○		
	タテスジゴマフ	○		
	キクスイモドキ	○	○	○
	コブスジサビ	○	○	○
	タテジマ		○	○
	シロスジドウボソ	○		
	ハスオビヒゲナガ	○		
	ハイロヤハズ		△	○
	トガリシロオビサビ	○	○	○
	ヒメナガサビ			○
	アトジロサビ	○		○
	アトモンサビ	○	○	○
	ワモンサビ	○		○
	ニイジマチビ	○	○	
	キボシ	○		○
	ホシベニ	○	○	○
	ゴマダラ	○	○	○
	ヤハズ	○	○	○
	マツノマダラ	○		○
	ヒメヒゲナガ	○	○	○
	チャボヒゲナガ	○		○
	センノ	○	○	
	ビロウド	○	○	○
	ニセビロウド			○
	シロスジ		○	
	クワ			○
	オオシロ	○		
	エゾナガヒゲ	○		○
	セミスジコブヒゲ	○		
	キバネアラゲ	○		○
	ヒトオビアラゲ	○	○	○
	フタモンアラゲ	○	○	
	シロオビチビ			○
	ヒゲナガモモフト			○
	トゲバ		○	○
	ホウノキトゲバ		○	
	ケシ	○		○
	クロオビトゲムネ	○	△	
	ガロアケシ	○	○	○
	アトモンマルケシ	○	○	○
	クモガタケシ	○		○
	オニグルミノキモン	○		
	フチグロヤツボシ		○	○
	ラミー	○	○	○
	シラホシ	○	○	○
	イッシキキモン	○		○
	ヘリグロリング	○	○	○
	リング	○		
	ヒメリング	○	○	
	ホソキリング	○		○
	ニセリング	○		○
	ヨツキボシ	○	○	○
	キクスイ	○	○	○

フ、キボシ、キバナアラゲ、イッシキキモンの4種が挙げられる。これらはいずれもクワ科の樹木を食樹としており、城山には食樹が比較的多いが観音山には見られない。また、アオスジ、ヤノトラ、タイワンメダカ、エゾナガヒゲ、オニグルミノキモン、ラミーなども、観音山には食樹（ネムノキ、カラスザンショウ、エノキ、ニガキ、カラムシなど）がごく少ないことから、生息するにしても個体数はごく少ないものと思われる。城山にはかつて耕作地だったことを示す階段状の地形が多く存在し、ヤマグワ、カジノキなど、人為的に搬入されたか、もしくは選択的に増加したと考えられる植物が見られ、またネムノキ、エノキ、カラスザンショウといった先駆樹種が多い。このように強く人為作用を受け続けてきた経緯は植生から読み取ることができ、当然ながら上記のようにカミキリムシ相にも反映されている。さらに、リングカミキリは城山では植栽された若いオオシマザクラにのみ多くの食痕が見られ、ソメイヨシノには極めて少ない。これも近年に人為的に持ち込まれた例であろう。

ここで、先にブナ林の保存度に関する指数として取り上げたハナカミキリ指数を両地にあてはめると、観音山では21.0%、城山では14.6%で、観音山の方が高い数値となって表れている。フトカミキリ亜科同士を同様の数値で比較すると、観音山では46.8%、城山では54.9%となり、ハナカミキリ同様の数値の開きが見られることから、一概にこれをもとにファウナを論じることは危険であるが、今回は両地の調査精度に若干の差があるため、今後観音山の調査精度が向上すれば、ハナカミキリ指数はブナ林以外においても自然環境の保存度を示す指数として使うことが可能ではないかと筆者は考えている。

本来、但馬海岸はスダジイやタブノキを中心とした照葉樹の極相林に覆われていたと推定され、現在の観音山の頂上付近に見られるオオハナ、ハネビロハナ、マツシトラなどの種は広く各地に分布していたと考えられる。しかし、平野部が少ないことから耕地面積が少なく、急斜面の上部まで開墾されたことから、極相林はわずかに寺社の周囲にのみ宗教的な理由で残されるのみとなり、本来成立していたファウナが現在では観音山など狭い地域に取り残されたのであろう。居組、三尾などの海岸部の集落には、小規模ながら良好な照葉樹林が残されており、今後これらの地域を調査することによって、但馬海岸の原始的環境を示す表徴種がより明確に浮かび上がってくるものと考えられる。

一方、城山に見られるカミキリムシ相は、現在の但

馬海岸全域に同様のファウナが広がっていることを示す例として捉えることができるだろう。但馬の海岸部は概して地形が急峻で、昆虫相の解明も難しいが、よく調査すればそれぞれの地域で城山と類似した種が発見されることと思われる。

4. おわりに

今回は従来のIRATSUME誌上での文献記録のみを採用した。他にも但馬海岸のカミキリムシについては若干の文献記録があるが、香住町や城崎町からの記録であったり、地名が不正確である等の理由から、調査精度を下げないためにそれらを引用しなかった。また、他にも今後採集される可能性がある種は多い。今回の対象地域外ではあるが、香住町余部では久斗山・蓮台山山系が海岸まで迫っており、標高100~200m程度の場所でオオアオやホソツヤヒゲナガコバネ、ピックニセハムシハナなどを採集しているので、これらの地域まで調査範囲に加えるなら、但馬海岸のカミキリムシ相は一層豊かなものになるだろう。

各地でカミキリムシの分布調査が活発だった時代はすでに去り、その結果もたらされたデータを基に何を考え、何を見つけ出すかという課題が残されている。今回は内容の浅い不十分な記述に留まったが、今後も地理的特徴をより明確にできる方法を考え続けたい。

参考文献

- 佐藤邦夫 (1996) IRATSUMEに採集記録が発表された但馬のカミキリムシ。IRATSUME20: 93-109.
村田 源 (1989) 西日本に異常低位分布を示す温帯植物。山梨植物研究2。

IRATSUMEバックナンバー価格表 1999年

No. 1 絶版

No. 2 ~ No. 7 但馬むしの会会員: 各1100円
一般: 各1400円

No. 8/9 ~ No. 22 会員: 各1300円
一般: 各1600円

※ 8/9, 13/14, 15/16は合併号

いずれも送料300円を加算のこと

ご注文は、但馬むしの会事務局まで

兵庫県のハムシ(3) (兵庫県甲虫相資料・350)

高橋 寿郎

Subfamily Eumolpinae サルハムシ亜科

Genus *Acrothinium* Marseul

68. *Acrothinium gaschkevitchii* (Motschulsky, 1860)

アカガネサルハムシ

Motschulskyが *Chrysochus gaschkevitchii* Motsch.として、1860年にJapanから記載した種である (Etud. Ent., 9, p.23, 1860)。この1860年の論文は、函館に駐在したロシア領事Gotschkevitch夫人の採集品に基づくものであるから、函館産をもとに記載したものと思われる(もともと、Gotschkevitchは1854~1855年の間、Putiatin提督と共に下田にいたことがあり、その時の採集品であるのかもしれない)。

Marshallは、この種をタイプに*Acrothinium*属を創設(1864, Proc. Linn. Soc. London, 8, p.47)した。

分布は大変広く、日本全土の他、シベリア、中国などからも知られている。背面の色彩には地理的変異が見られ、九州から南の地域では特に著しく、いくつかの亜種に分けられている。たいへん美しい種であるが、ブドウの害虫としても知られている。

兵庫県下にも広く分布し、ごく普通に見られる。

産地：津名郡愛宕山〔大野, 1969〕。三原郡南淡町諭鶴羽山, 三原町成相峠, 洲本市鮎屋〔大野, 1969〕。洲本市先山〔大野, 1969〕, 上内膳〔藤富, 1995〕。川辺郡猪名川町木間生, 槻並〔仲田, 1978, 1982〕。川西市一ノ鳥居, 笹部, 横地, 芋生〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市小林, 切畑長尾山, 玉瀬, 西谷西部〔水野, 1993〕。西宮市船坂 (lex., 11-VI-1987)。神戸市御影〔関, 1933〕, Hiogo〔Harold, 1875〕, 兵庫区烏原 (lex., 16-VI-1938, etc.), 北区山の街 (lex., 10-V-1959, etc.), 箕谷 (2exs., 11-V-1952), 五社 (3exs., 20-VI-1959), 谷上 (4exs., 29-IV-1958, etc.), 丹生山 (2exs., 18-V-1958), 藍那 (lex., 26-V-1993, etc.), 唐櫃〔岩田, 1983〕, 八多町屏風 (lex., 4-VI-1993, etc.), 西区太山寺 (lex., 26-V-1957), 伊川谷 (2exs., 13-V-1988), 須磨区妙法寺 (lex., 30-IV-1959, etc.), 多井畑 (lex., 23-V-1990)。美囊郡吉川町 (lex., 16-V-1996)。三木市大村 (lex.,

10-V-1990)。小野市来住町 (2exs., 26-VI-1991)。加東郡東条町森 (4exs., 4-VII-1984), 社町三草 (lex., 7-V-1987, etc.)。三田市内 (lex., 28-V-1983, Y. Hachitani leg.)。多可郡加美町白山 (lex., 3-V-1973), 加美町鳥羽 (2exs., 1-VI-1975)。神崎郡大河内町川上 (3exs., 7-V-1977, etc.)。飾磨郡家島町家島 (lex., 26-V-1978)〔上田, 1981〕。龍野市神岡町 (lex., 13-VI-1988)。揖保郡新宮町福原 (2exs., 15-V-1992, etc.)。相生市三濃山 (lex., 3-V-1969)〔大野, 1967〕。粟栗郡波賀町音水 (3exs., 20-VI-1959, etc.)。多紀郡雨石山〔林ほか, 1995〕。氷上郡柏原町〔山本, 1953, 1958〕, 山南町 (2exs., 5-VI-1990)。朝来郡和田山町枚田岡〔上田, 1956〕。出石郡但東町〔高橋, 1963〕。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕, 日高町奈佐路 (lex., 22-V-1986)。養父郡八鹿町名草神社, 大屋町藤無山〔岩田, 1983〕, 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕, 関宮町氷ノ山 (lex., 27-VI-1956, etc.)〔高橋, 1975, 上田, 1996〕。美方郡温泉町湯村 (lex., 14-VI-1983), 温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1975〕, 浜坂町味原, 城山, 久斗山〔磯野, 1985〕。

Genus *Basilepta* Baly

69. *Basilepta balyi* (Harold, 1877)

チャイロサルハムシ

HaroldがHakone産の標本に基づき、*Nodostoma*属の種として1877年に記載した。JacobyがKiso産をもとに1885年に記載した*Nodostoma japonicum*, OtsukaがMt.Togakushi産に基づき1911年に記載した*Nodostoma otsukae*は、いずれも本種のシノニムである。

背面は一般に赤褐色で、個体によっては黒化し、その程度は様々である。食草としてハンノキが知られており、一時ハンノキサルハムシと呼ばれていたことがある。分布は琉球を除く日本全土。

兵庫県下にも広く分布しているが、やや標高の高い地域に多いようである。

産地：西宮市船坂 (3exs., 28-V-1987, etc.)。神戸市

北区逢山峡 (7exs., 1-VII-1986), 六甲山 (3exs., 22-V-1987, etc.). 城崎郡三川山〔高橋, 1975〕. 神崎郡大河内町川上 (1ex., 24-V-1977). 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 3-VI-1975, M.Yuma leg., etc.), 波賀町音水 (1ex., 3-VI-1975, M.Yuma leg.), 波賀町坂ノ谷 (3exs., 9-VI-1973). 養父郡関宮町氷ノ山 (14exs., 24-VII-1955, etc.)〔高橋, 1975〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔高橋, 1975〕, 村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕.

70. *Basilepta fulvipes* (Motschulsky, 1860)

アオバネサルハムシ

Motschulskyが1860年に, “W. Siberia: Dauria, Amur” から *Nodostoma fulvipes* として記載した種である. 同時に日本産を *N. atripes* という学名で, 別種として記載したが, 現在では大陸のものと同種として扱われている.

色彩は変異に富み, 頭部, 前胸背板, 上翅はそれぞれ青, 緑, 銅赤, 黄色などの, いろいろな組み合わせとなる. 中條道夫博士は, 1956年にそれらをいくつかの *forma* として区分したが, 中間的な色彩の個体も現れるので, 現在は使われていない. ヨモギが食草である.

兵庫県下では分布は広く, 個体数も大変多い.

産地: 津名郡北淡町岩屋 (3exs., 4-VIII-1957). 洲本市先山〔堀田, 1959〕. 三原郡南淡町諭鶴羽山〔久松, 1974〕. 川辺郡猪名川町内馬場〔仲田, 1978, 1982〕. 川西市見野〔仲田, 1970, 1978, 1982〕. 伊丹市〔河上, 1984〕. 宝塚市上佐曾利, 切畑長尾山〔水野, 1993〕. 西宮市船坂 (1ex., 5-VI-1987). 神戸市灘区摩耶山 (2exs., 14-VIII-1955), 中央区布引 (1ex., 17-V-1951), 北区金剛童子山 (40exs., 24-VI-1956), 兵庫区烏原 (1ex., 18-VI-1939, etc.), 北区藍那 (1ex., 14-VII-1978, etc.), 須磨区多井畑 (6exs., 19-VI-1990, etc.), 北区淡河町芦谷溪谷 (1ex., 5-VII-1982), 西区伊川谷 (4exs., 5-VII-1988). 三木市細川中 (11exs., 11-VII-1985, etc.), 口吉川町 (10exs., 3-VII-1986). 美囊郡吉川町 (1ex., 11-VII-1985, etc.). 小野市山田町 (1ex., 23-VI-1987, etc.), 来住町 (4exs., 21-VI-1971, etc.). 加東郡東条町森 (5exs., 22-VI-1984, etc.), 社町三草 (17exs., 17-VI-1987, etc.). 加西市畑 (3exs., 23-VI-1974). 多可郡加美町三谷 (1ex., 2-VIII-1975), 加美町鳥羽 (1ex., 19-VII-1975). 朝来郡生野町 (2exs., 8-VII-1956), 和田山町枚田ノ園, 山東町田中〔上田, 1996〕. 飾磨郡家島町家島〔上田, 1981〕. 龍野市神岡町 (1ex., 8-IX-1988, etc.). 相生市三濃山〔大野, 1969〕. 宍粟郡一宮町福知溪谷

(1ex., 20-VI-1976), 波賀町音水 (1ex., 20-VI-1959, etc.). 水上郡柏原町, 春日町黒井〔山本, 1953, 1958〕, 春日野惣寺〔高橋, 1960〕, 山南町 (4exs., 11-VII-1963). 出石郡但東町正法寺〔高橋, 1963〕. 豊岡市内〔高橋, 1975〕, 豊岡市目坂〔上田, 1996〕. 城崎郡日高町岩中〔高橋, 1975〕, 日高町奈佐路 (3exs., 19-VI-1986), 城崎町ひのそ島, 香住町準人, 竹野町三原〔上田, 1996〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (15exs., 25-VII-1953, etc.), 大屋町杉ヶ沢〔磯野, 1985〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕, 浜坂町味原, 清富〔磯野, 1985〕.

71. *Basilepta hirticollis* (Baly, 1874)

ムナグロサルハムシ (ムナゲクロサルハムシ)

BalyがNagasaki産の標本に基づいて, *Nodostoma hirticollis* として記載した種である (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.167).

前胸背板に剛毛を密生し, 頭部, 前胸背板は点刻を密に装い, 点刻の直径は点刻の間室より大きく, 点刻の間室は平滑. 食草はイヌツゲで, 分布は本州, 四国, 九州, 屋久島である.

兵庫県下での記録は比較的少ない.

産地: 宝塚市大原野美座〔水野, 1993〕. 多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕. 相生市三濃山〔大野, 1967〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 27-VII-1956).

72. *Basilepta pallidula* (Baly, 1874)

ウスイロサルハムシ

Balyにより1874年に, 長崎産の標本に基づき, *Nodostoma pallidulum* として記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, p.169). その後, Weiseが東京産の標本を基に記載した *Nodostoma laeviuschulum* も, 本種のことである (Verh. Naturf. Ver. Brunn, 48, p.34, 1910).

一般に黄褐色. スギハムシともいわれ, 食草としてスギ, ヒノキ, クヌギ, ナラ類などが知られている. 分布は北海道と琉球を除く日本全土.

兵庫県下にも広く分布していると思われるが, 記録は以外に少ない.

産地: 三原郡諭鶴羽山〔久松, 1974〕. 川西市大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕. 神戸市六甲山 (1ex., 10-VII-1955), 中央区布引 (2exs., 20-VII-1952), 中央区二十番 (1ex., 26-VI-1955), 兵庫区烏原 (3exs., 11-VII-1958, etc.), 須磨区多井畑 (1ex., 26-VI-1990). 加東郡社町三草 (1ex., 24-VI-1987). 小野

市来住町 (lex., 26-VI-1991) . 龍野市神岡町 (lex., 21-VII-1988) . 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (lex., 24-VII-1955) . 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社〔磯野, 1985〕.

73. *Basilepta ruficollis* (Jacoby, 1885)

ムネアカサルハムシ

Jacobyにより, Nikko, Fukushima産の標本に基づき, *Nodostoma ruficolle*として記載された種である (Proc. Zool. Soc. London, 1885, p.205, pl.11, fig.10) .

前胸背板は赤褐色, 他はすべて黒色. 前胸後側板には明瞭な点刻をほとんど欠き, 頭頂の点刻は強く, 密に装い, これらの点刻の直径は点刻間室の幅に等しいか, または幅より広い. 前胸背板の側縁はゆるやかに湾曲する. 体長4.7~5.0mm. 分布は北海道と琉球を除く日本全土.

兵庫県下には広く分布するが, やや山地性のようにある.

産地: 宝塚市武田尾〔小田中, 1994〕. 多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕. 氷上郡青垣町神楽〔山本, 1958〕. 朝来郡和田山町糸井溪谷〔上田, 1996〕. 城崎郡三川山〔高橋, 1975〕. 宍粟郡波賀町音水 (lex., 13-VII-1938, etc.) 波賀町赤西 (lex., 23-VI-1979) , 波賀町坂ノ谷 (2exs., 22-VII-1979) . 養父郡関宮町氷ノ山 (lex., 27-VII-1956, etc.) 〔後藤, 1955, 上田, 1996〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 秋山・日暮, 1995〕.

Genus *Chrysochus* Redtenbacher

74. *Chrysochus chinensis* Baly, 1859 オオサルハムシ

本種は種名にあるように, 中国北部から記載された (Ann. Mag. Nat. Hist. ser.3/4, p.125, 1859) . 日本からの記録は, 1874年のBalyによるHiogo (現在の神戸市) が最初のものとなる (Trans. Ent. Soc. London, 1874-Part. II:165) .

比較的大型で, 藍色の光沢があり美しい. 分布は広いが, 記録はあまり多くない種である. 本種については, 筆者が詳しく報告したことがある (きべりはむし Vol.21, No.2, pp.44-48, 1993) . 食草としてイヨカズラ, サツマイモが知られている.

兵庫県下での記録も多くない.

産地: Hiogo [Baly, 1874, Heyden, 1879] . 神戸市北区藍那 (1♂, 15-VII-1993) , 八多町屏風 (1♂1♀, 4-VII-1993) . 加東郡東条町森 (lex., 22-VI-1984, Y. Hachitani leg.) . 氷上郡春日町黒井〔山本, 1953, 1958〕.

Genus *Cleoporus* Lefèvre

75. *Cleoporus variabilis* (Baly, 1874)

サクラサルハムシ

Balyにより, “Nagasaki” 産に基づいて, 1874年に *Paria*属として記載された種である.

背面の色彩・斑紋は変異が多く, 黒色の斑紋の発達状態によって, 全体が黒色のものから全体が黄褐色のものまで様々である. 体長は3.0-3.5mm. 食草としてさくら, ウメ, ナシ, リンゴが知られている. 分布は広く, 北海道と琉球を除く日本全国のほか, 朝鮮半島, シベリア, 中国, 台湾, 東南アジアにまで及ぶ.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 川西市一ノ鳥居寒天干場〔木元・日浦, 1971〕. 西宮市船坂 (lex., 5-VI-1987) . 神戸市北区藍那 (lex., 14-VII-1978, etc.) , 兵庫区烏原 (lex., 15-VI-1982) . 小野市来住町 (lex., 26-VI-1991, etc.) . 加東郡社町三草 (9exs., 5-VI-1989, etc.) 朝来郡生野町 (4exs., 8-VII-1956) . 宍粟郡波賀町音水 (lex., 16-VII-1972) . 氷上郡柏原町〔山本, 1953, 1958〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (4exs., 27-VII-1956, etc.) , 大久保~鉢伏高原〔木元・日浦, 1971〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田, 1972〕. 浜坂町〔高橋, 1975〕. 浜坂町清富〔磯野, 1985〕.

Genus *Colasposoma* Laporte

76. *Colasposoma dauricum* (Mannerheim, 1849)

イモサルハムシ

Mannerheimが東シベリア産をもとに記載した種である (Bull. Soc. Imp. Nat. Moscow, 1, p.247, 1849) . Motschulsky が E. Siberia: Dauria, Amur 産で記載した *Colasposoma cyanea* (Schrenk's Reisem, Amurl. 2, p.177. pl.11, f.2, 1860) , 同じくMongolie産で記載した *Colasposoma mongolicum* (I.C., 2, P.148, 1860) は, 共に本種と同一種である. 分布は北海道と琉球を除く日本全国, シベリア, モンゴル, 中国.

背面の色彩は, 青藍色のほかに, 緑青色や赤銅色のものがある. 体長は5.3-6.0mm, 食草としてサツマイモ, ヒルガオが知られている.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 津名郡轟木 (lex., 20-VI-1979) . 川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1978, 1982〕. 伊丹市〔河上, 1984〕. 西宮市香櫨園 (3exs., 30-V-1941) . 神戸市兵庫区烏原 (lex., 14-VII-1968, etc.) . 神崎郡大河内町川上 (lex., 15-VII-1977) . 飾磨郡家島町家島 (lex., 26-V-1978) 〔上田, 1981〕. 相生市三濃山

(lex., 20-VII-1974) [大野, 1967]. 宍粟郡波賀町音水 (4exs., 16-VII-1972, etc.). 氷上郡 [山本, 1953, 1958]. 朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]. 豊岡市城南 [高橋, 1975]. 養父郡関宮町氷ノ山 (3exs., 24-VII-1956).

Genus *Demotina* Baly

77. *Demotina bipunctata* Jacoby, 1885

フタモンカサハラハムシ (フタモンアラゲサルハムシ)

Jacobyが神戸産の標本で記載した種である (Proc. Zool. Soc. London, 1885, p.204). その後中根猛彦博士が屋久島から*Demotina inornata*として記載した種 (Sci. Rept. Saikyo Univ., ser.A, 2/5, p.304, 1958) は、本種と同一である。

一般に黄褐色、頭部、前胸背板および上翅側方部、上翅基部の小紋は白色。触角、肢は褐色。頭楯の幅は長さの1.7倍。体長3.2mm。分布は本州、四国、九州、対馬、屋久島である。

兵庫県下には広く分布していると考えられるが、記録はあまり多くない。

産地: Kobe [Jacoby, 1885]. 神戸市北区山田町衛原、西区太山寺、中央区大龍寺 [磯野, 1988, 1990], 兵庫区烏原 (lex., 26-V-1982, etc.). 加東郡社町三草 (2exs., 6-VIII-1989, etc.). 養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 27-VII-1956). 美方郡浜坂町 [磯野, 1990], 浜坂町味原、観音山 [磯野, 1985].

78. *Demotina decorata* Baly, 1874

チビカサハラハムシ

Balyにより長崎産をもとに記載された (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.163). 一般に赤褐色～暗褐色。上翅には不規則な黒色紋があり、通常は基部に鱗状の剛毛よりなる白色紋を斜めに装う。触角は赤褐色。触角第2節は第3節に比較して長い。体長2.2-3.0mm。分布は北海道を除く日本全土。

兵庫県下にも広く分布していると考えられるが、記録はそれほど多くない。

産地: 洲本市三熊山 [久松, 1974]. 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 神戸市北区山田町衛原 [磯野, 1988, 1990], 北区藍那 (lex., 16-IX-1993, etc.), 西区太山寺 [磯野, 1988]. 相生市三濃山 (lex., 3-V-1969, etc.). 宍粟郡波賀町上野 [相坂, 1995]. 氷上郡生郷村 [山本, 1953, 1958]. 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995].

79. *Demotina elegans* Chûjô et Shirôzu, 1955

ヤクカサハラハムシ

中條道夫・白水隆両博士により、屋久島安房産の標本をもとに記載された種である (*Sieboldia*, Kyusyu Univ., 1(3), p.239, 1955).

一般に黄褐色、前胸背板・小楯板・頭部の複眼後方は多少暗色、触角・ふ節は淡色、触角第5節は第3節より明らかに短い。前・中肢のふ節第3節は、後肢のそれより大きい。体長3.0mm。

南方系の種のように、南は台湾あたりまで分布しているが、本州、八丈島、九州にも分布している。

兵庫県下の記録は少ない。

産地: 神戸市灘区摩耶山 (lex., 14-VIII-1955), 北区山田町谷上 (lex., 28-IV-1958), 北区山の街 (lex., 1-VI-1958), 西区太山寺 [磯野, 1984]. 加東郡東条町森 (lex., 4-VII-1984, etc.).

80. *Demotina fasciculata* Baly, 1874

マダラアラゲサルハムシ

Balyにより、長崎産をもとに記載された (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.162).

一般に暗褐色～黒褐色。上翅には通常、基部に鱗状の剛毛よりなる白色紋を斜めに装う。触角は全体赤褐色、肢は赤褐色、たい節末端部とけい節は、基部および末端部が黒色。上翅会合部の末端はまるく、長さは幅の約1.3倍。体長は3.3-4.2mm。

北海道と琉球を除く日本全土のほか、中国南部にも分布している。

兵庫県にも分布し、ごく普通にみられる。

産地: 三原郡南淡町諭鶴羽山 [大野, 1969, 酒井, 1973], 三原町成相峠、洲本市鮎屋 [大野, 1969], 南淡町沼島 [楠井, 1992]. 洲本市先山 [大野, 1969]. 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市下佐曾利 (2exs., 13-V-1983), 下佐曾利、香合新田 [水野, 1993]. 神戸市六甲山 (6exs., 8-V-1955, etc.), 北区山の街 (lex., 23-V-1963), 北区山田町谷上 (2exs., 29-IV-1959, etc.), 北区山田町下谷上 (lex., 12-X-1979), 北区藍那 (lex., 2-V-1976), 北区山田町衛原 [磯野, 1988, 1990] 北区逢山峡 (lex., 2-VII-1982), 西区太山寺 (2exs., 30-IV-1973) [磯野, 1988], 兵庫区烏原 (lex., 30-IV-1984, etc.), 須磨区多井畑 (lex., 23-V-1990). 三木市細川中 (3exs., 13-IX-1985), 三木市 (lex., 4-IX-1986), 口吉川町笹原 (lex., 3-X-1986, etc.). 小野市来住町 (3exs.,

9-V-1991, etc.) . 飾磨郡夢前町雪彦山 (1ex., 14-VI-1957) , 夢前町我孫子 (1ex., 1-VIII-1980) . 多可郡加美町三谷 (1ex., 8-VI-1975) . 神崎郡大河内町川上 (1ex., 7-V-1977, etc.) . 龍野市神岡町 (1ex., 26-V-1989, etc.) 相生市三濃山 [大野, 1967] (21exs., 3-V-1967, etc.) 宍粟郡波賀町音水 (2exs., 20-VI-1959, etc.) . 氷上郡柏原町 (1ex., 10-V-1953) , 香良 [高橋, 1960] , 山南町 (2exs., 5-VII-1990, etc.) . 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 観音山 [磯野, 1985, 1990] .

81. *Demotina modesta* Baly, 1874 カサハラハムシ
Balyにより, 1874年にNagasaki産で記載された種である。

背面の色彩, 斑紋は変異に富み, 一般に赤褐色または黒褐色, 時にまだら状となる。触角第2節は第3節より短い。小楯板は舌状, 基部は末端部にかけて狭まらない。上翅末端の角度は約90°。体長3.0-4.0mm。分布は北海道を除く日本全土並びに朝鮮半島, 中国。

兵庫県下にも広く分布しており, 普通に見られる。
産地: 洲本市三熊山 [久松, 1974] . 川西市大和, 笹部 [仲田, 1978, 1982, 磯野, 1990] . 西宮市盤滝 (1ex., 3-IX-1987) . 神戸市兵庫区烏原 (1ex., 1-VIII-1971, etc.) [磯野, 1990] , 北区山田町谷上 (1ex., 29-IV-1958, etc.) , 北区逢山峡 (1ex., 1-VII-1986, etc.) , 北区西鈴蘭台大山公園 (2exs., 28-VI-1982, Y. Hachitani leg.) , 北区八多町屏風 (2exs., 22-VII-1993) , 北区山田町衝原, 西区太山寺 [磯野, 1988, 1990] , 須磨区多井畑 (1ex., 19-VI-1990) . 三木市口吉川町 (1ex., 1-VII-1986, etc.) , 細川中 (1ex., 11-VII-1985) . 美囊郡吉川町 (1ex., 16-V-1986) . 小野市山田町 (2exs., 7-VIII-1987) . 加東郡東条町森 (1ex., 4-VII-1984, etc.) , 社町三草 (3exs., 24-VI-1987, etc.) . 龍野市神岡町 (1ex., 13-VI-1988, etc.) . 揖保郡新宮町福原 (2exs., 7-VII-1992) . 相生市三濃山 (1ex., 6-VII-1973) . 宍粟郡音水 (2exs., 10-V-1970, etc.) . 氷上郡 [高橋, 1960] , 柏原町 [磯野, 1990] . 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995] . 豊岡市妙楽寺 [高橋, 1975] . 美方郡浜坂町味原, 観音山 [磯野, 1985, 1990] .

82. *Demotina squamosa* Isono, 1990 アラゲサルハムシ
1990年に, 磯野昌弘博士により福岡県川崎町の標本をholotypeとして記載された (Jpn. J. Ent. 58(2), p.379) . Paratypesには本州, 八丈島, 四国, 九州, 対馬産など。

が指定されており, 兵庫県産としては川西市笹部, 神戸市太山寺のものが含まれている。

一般に黄褐色, 触角第2節は第3節より明瞭に短い。体長2.9-4.2mm。

兵庫県からの記録は少ないが, おそらく広く分布していると考えられる。

産地: 川西市笹部 [磯野, 1990] . 神戸市太山寺 [磯野, 1990] , 宍粟郡波賀町音水 (2exs., 4-V-1972, etc.) , 赤西 (2exs., 10-V-1970) .

83. *Demotina tuberosa* Chen, 1935

コブアラゲサルハムシ

Chenにより, China, Tonkin産で1935年に記載された種である (Sinensia 6(3), p.354, fig.33) . Ohnoにより1960年に記載された *D. japona* (Trans. Shikoku Ent. Soc. 6, p.65) は, 本種のシノニムである。

一般に赤褐色または黒褐色, 前胸背板と上翅には不規則な黒色紋を装う。触角は全体赤褐色, 肢は赤褐色, たい節末端部, けい節の基部および末端部は黒色。上翅後方に隆起条をもつ。体長3.8mm。本州, 四国, 九州, 対馬のほか, 中国南部, ベトナム, ラオスに分布する。

兵庫県下からは次の記録があるだけで, 調査が不十分であると考えられる。

産地: 宍粟郡波賀町音水 (1ex., 25-VI-1972, 3exs., 4-VI-1973) .

Genus *Hyperaxis* Gemminger & Harold

84. *Hyperaxis fasciata* (Baly, 1874)

クロオビカサハラハムシ

Balyにより, 長崎産をもとに *Demotina fasciata* として記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.162) .

体は黒褐色から黒と白のまだら状。前胸背板は前縁ぞいに幅広くくぼむ。上翅は後方に斜めの黒条を装う。体長4.2-4.5mm。食草はカシワ類。

分布は北海道を除く日本全土で南は屋久島までである。もともと, 台湾・中国にも分布しているから, 琉球諸島にも分布しているかもしれない。

兵庫県下には広く分布している種で, 普通にみられる。
産地: 三原郡三原町成相峠 [大野, 1969] , 南淡町論鶴羽山 [酒井, 1973] . 洲本市先山 [大野, 1969, 酒井, 1973] . 川辺郡猪名川町三草山 (1ex.5-VII-1980) . 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982] . 西宮市船坂 (1ex., 5-VI-1987) , 盤滝 (1ex., 22-V-1987) . 神戸市中央区

布引 (lex., 7-V-1959), 兵庫区烏原 (lex., 20-IV-1955, etc.), 北区藍那 (lex., 28-IV-1993, etc.), 北区逢山峽 (lex., 17-V-1985), 北区山の街 (lex., 11-IV-1954, etc.), 北区山田町谷上 (2exs., 5-V-1956, etc.), 北区山田町丹生山 (lex., 15-V-1955), 北区山田町帝釈山 (4exs., 30-IV-1973), 北区淡河町芦谷溪谷 (lex., 13-IX-1982), 北区山田町衡原, 西区太山寺 [磯野, 1988], 須磨区多井畑 (3exs., 27-IV-1990), 須磨区妙法寺 (lex., 27-II-1979, etc.), 石井ダム (4exs., 18-X-1991), 西区押部谷町木津 (lex., 5-X-1984, etc.), 西区伊川谷町前開 (lex., 18-V-1988), 垂水区垂水 (7exs., 10-V-1985), 美婁郡吉川町 (lex., 6-VI-1985), 小野市山田町 (2exs., 24-IX-1987), 来住町 (lex., 9-V-1981), 加東郡東条町 (lex., 18-V-1984), 社町三草 (lex., 15-V-1987, etc.), 神崎郡大河内町川上 (lex., 3-VI-1977), 龍野市神岡町 (lex., 14-IX-1988, etc.), 相生市三濃山 [大野, 1967] (lex., 7-V-1972, etc.), 宍粟郡波賀町原 (2exs., 11-V-1979), 波賀町音水 (lex., 25-VI-1972, etc.), 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1955], 出石郡出石町 [高橋, 1963], 豊岡市愛宕山 [高橋, 1975], 美方郡浜坂町味原, 宇都野神社, 観音山 [磯野, 1985] .

Genus *Lypsethes* Baly

85. *Lypsethes ater* (Motschulsky, 1860)

コフキサルハムシ (リングコフキハムシ)

Motschulskyにより, 日本から *Fidia ater* として記載された種である (Etud. Ent. 9, p.22, 1860). 一般に黒色, 背面はきわめて細い剛毛と白粉に覆われる. 肢は時に赤褐色, 体長6.0-7.0mm. リング, ナシ, ウメ, クルミの害虫として知られている. 分布は琉球列島を除く日本全土である.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 川辺郡猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982], 宝塚市玉瀬 [水野, 1993], 西宮市盤滝 (lex., 22-V-1987), 神戸市六甲山 (lex., 15-V-1955, etc.), 兵庫区烏原 (lex., 9-VIII-1984, etc.), 北区山田町丹生山 (4exs., 15-V-1956, etc.), 多可郡加美町鳥羽 (lex., 1-VI-1975, etc.), 神崎郡笠形山 (lex., 12-VI-1966), 大河内町川上 (lex., 14-V-1977, etc.), 朝来郡朝来町須留ヶ峰 (2exs., 9-VI-1975, M.YUMA leg.), 和田山町糸井溪谷 [上田, 1996], 相生市三濃山 [大野, 1967] (5exs., 7-V-1972, etc.), 宍粟郡波賀町音水 [木元・日浦, 1971] (lex., 31-V-1970,

etc.), 波賀町赤西 (lex., 27-V-1979, etc.), 波賀町坂ノ谷 (lex., 9-VI-1973), 氷上郡 (青垣町) 神楽村 [山本, 1953, 1958], 多紀郡雨石山 [林ほか, 1995], 出石郡出石町 [高橋, 1963], 城崎郡日高町山宮 [高橋, 1975], 日高町神鍋山, 日高町三川山 [上田, 1996], 養父郡関宮町水ノ山 (lex., 25-VIII-1959), 美方郡温泉町扇ノ山 [上田, 1996], 浜坂町観音山 [磯野, 1985] .

Genus *Nodina* Motschulsky

86. *Nodina chalcosoma* Baly, 1874

アオガネヒメサルハムシ

Balyにより, 長崎・China産で1874年に記載された種である. 一般に赤銅色, 触角・肢は赤褐色. 雌では上翅側方に2条の長い隆起と, その中間に短い1条の隆起を装う. 体長1.8-2.5mm. 食草としてブドウ, テリハノイバラ, ノボタンなどが知られている. 分布は北海道を除く日本全土.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 三原郡南淡町論鶴羽山 [久松, 1974], 洲本市先山 [久松, 1974], 川辺郡猪名川町三草山 (3exs., 5-VII-1980), 川西市笹部, 大和 [仲田, 1978], 神戸市六甲山 (lex., 10-VII-1955), 兵庫区烏原 (2exs., 11-VII-1971, etc.), 北区山の街 (lex., 17-V-1953, etc.), 北区藍那 (7exs., 21-VI-1993, etc.), 鈴蘭台大山公園 (lex., 23-VII-1982), 北区八多町屏風 (lex., 22-VII-1993), 須磨区妙法寺 (lex., 28-V-1979), 須磨区須磨 (2exs., 9-VII-1982), 須磨区多井畑 (4exs., 19-VI-1990), 西区伊川谷 (11exs., 6-VII-1988), 三木市細川中 (2exs., 11-VII-1985), 口吉川町 (7exs., 3-VII-1986), 美婁郡吉川町 (3exs., 11-VII-1985, etc.), 小野市山田町 (2exs., 7-VII-1987), 来住町 (5exs., 21-VI-1991, etc.), 加東郡東条町 (8exs., 4-VII-1985), 社町三草 (3exs., 6-VII-1989, etc.), 飾磨郡夢前町雪彦山 (4exs., 14-VII-1957), 朝来郡生野町 (lex., 8-VII-1956), 和田山町宝山 (10exs., 16-VI-1994), 龍野市神岡町 (3exs., 13-VI-1988), 相生市三濃山 (lex., 20-VII-1974), 氷上郡柏原町 [山本, 1953, 1958], 養父郡関宮町水ノ山 (4exs., 2-VIII-1953, etc.), 美方郡浜坂町味原, 観音山 [磯野, 1985] .

Genus *Pagria* Lefèvre

87. *Pagria signata* (Motschulsky, 1858)

ヒメキバネサルハムシ

Motschulskyにより、Burma産に基づき *Metachroma signata* として記載された種である (Etud. Ent., 7, p.110, 1858)。日本からは、Balyが長崎、対馬産をもとに *Nodostoma concimilis* として記載した (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.168) のが最初の記録となる。体長 1.8-2.4mm。背面の色彩・斑紋は変異に富む。前胸背板は黄褐色または黒色。上翅は全体黒色か、あるいは地色が黄褐色で、基部は他の部分より淡色となり、基部後方の横溝、側線部は黒褐色。

ダイズの害虫として知られている。北海道を除く日本全土ならびに東南アジアに広く分布している。

兵庫県下にも広く分布している。

産地：三原郡南淡町論鶴羽山、洲本市鮎屋〔大野, 1969〕、三原町福良〔酒井, 1973〕。洲本市先山〔大野, 1969〕。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。伊丹市〔河上, 1985〕。宝塚市切畑長尾山〔水野, 1983〕。神戸市兵庫区鳥原 (14exs., 3-V-1966, etc.)、北区山の街 (1ex., 30-V-1954, etc.)、北区山田町丹生山 (1ex., 15-V-1955, etc.)、北区藍那 (1ex., 22-V-1978, etc.)、須磨区妙法寺 (2exs., 23-VI-1979)、垂水区垂水 (2exs., 10-V-1985)、北区逢山峡 (2exs., 1-VII-1986, etc.)、西区伊川谷 (2exs., 13-V-1988, etc.)、須磨区多井畑 (1ex., 23-V-1990)、北区八多町屏風 (1ex., 2-IX-1993)。三木市細川中 (2exs., 11-VII-1985)、口吉川町笹原 (1ex., 3-X-1986)、口吉川町 (2exs., 3-VII-1986, etc.)。美囊郡吉川町 (1ex., 27-VII-1985, etc.)、吉川町奥山 (1ex., 5-VI-1986, etc.)。小野市下来住町 (2exs., 26-VI-1981, etc.)。加東郡東条町森 (1ex., 4-VII-1984)、社町三草 (2exs., 7-V-1987, etc.)。飾磨郡夢前町雪彦山 (1ex., 14-VI-1979)。多可郡加美町三谷 (1ex., 26-VIII-1975, etc.)。神崎郡大河内町川上 (2exs., 9-VI-1977)。龍野市市岡町 (2exs., 13-VI-1988, etc.)。相生市三濃山〔大野, 1967〕。揖保郡鷺鷥山 (1ex., 27-V-1970)、新宮町福原 (1ex., 10-VI-1972, etc.)。佐用郡南光町船越山〔木元・日浦, 1964〕。宍粟郡波賀町音水 (1ex., 25-VI-1972)。氷上郡柏原町〔山本, 1953, 1958〕。山南町 (1ex., 19-VI-1990, etc.)。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。豊岡市妙楽寺、立野〔高橋, 1975〕。城崎郡日高町 (1ex., 3-X-1985)。養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 24-VII-1955)。美方郡浜坂町味原、宇都野神社、城山、清富〔磯野, 1985〕。

Genus *Scelodonta* Westwood

88. *Scelodonta lewisii* Baly, 1874 ドウガネサルハムシ
Balyにより長崎産に基づき記載された種である

(Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.165)。

背面の色彩には変異があり、赤褐色・緑・青色。体長 3.2-4.0mm。食草としてノブドウなどが知られている。分布は北海道と琉球を除く日本全土。

兵庫県下にも広く分布している。

産地：洲本市先山〔大野, 1969〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市玉瀬〔小田中, 1994〕。神戸市兵庫区鳥原 (1ex., 8-VIII-1965, etc.)、須磨区妙法寺 (1ex., 28-V-1979)、北区淡河町芦谷溪谷 (1ex., 5-VI-1983)。飾磨郡家島町家島〔上田, 1981〕。加東郡社町三草 (1ex., 17-VI-1987)。氷上郡柏原町〔山本, 1953, 1958〕。相生市三濃山〔大野, 1967〕。養父郡関宮町氷ノ山 (2exs., 24-VII-1955)。美方郡浜坂町宇都野神社、清富〔磯野, 1985〕。

Genus *Trichochrysea* Baly

89. *Trichochrysea japona* (Motschulsky, 1857)

トビサルハムシ

Motschulskyにより、Japan産で *Heteraspis japona* として記載された種である (Ent. 6, 37, 1857)。

体背面は赤銅色で、上翅中央部後方に白色紋を装う。前胸背板前角は角張る。小顎ひげの末端節は幅広い。体長 6.2-8.2mm。食草としてクリ、クヌギが知られている。分布は本州、対馬、朝鮮半島および中国である。

兵庫県下には広く分布している。

産地：川辺郡猪名川町木間生、槻並〔仲田, 1978, 1982〕。槻並 (3exs., 4-V-1979)。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。宝塚市香合新田〔水野, 1993〕。神戸市東灘区御影〔関, 1933〕。北区山田町丹生山 (1ex., 5-V-1956)、北区藍那 (2exs., 10-V-1979, etc.)、北区淡河町芦谷溪谷 (1ex., 11-VI-1982)、西区太山寺 (1ex., 26-V-1967)。飾磨郡夢前町雪彦山 (2exs., 14-VII-1957)。多可郡加美町三谷 (1ex., 24-V-1975)、加美町鳥羽 (1ex., 1-VI-1975)。朝来郡生野町柝原〔Komiya, Y., 1985〕。相生市三濃山〔大野, 1967〕 (3exs., 3-V-1969, etc.)。宍粟郡波賀町音水〔日浦・木元, 1971〕 (3exs., 31-V-1970, etc.)。多紀郡篠山町小金岳〔山本, 1953, 1958〕。篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕。氷上郡妙高山〔山本, 1953, 1958〕。出石郡出石町〔高橋, 1963〕。豊岡市妙楽寺〔高橋, 1975〕。円山川公苑〔上田, 1996〕。城崎郡日高町森山、三川山〔高橋, 1975〕。日高町奈佐寺 (5exs., 22-V-1986)、日高町上郷、神鍋〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山〔高橋, 1959〕。美方郡浜坂町護国神社、宇都野神社、観音山〔磯野, 1985〕。

村岡町本谷奥〔秋山・日暮, 1995〕。

Genus *Xanthonia* Baly

90. *Xanthonia placida* Baly, 1874 キカサハラハムシ

Balyにより, 長崎産で記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.161)。黄褐色で, 個体により体腹面, 上翅会合部および側縁部, 前胸背板中央部および側方部は黒褐色。肢は一般に黄褐色。体長 2.5-3.2mm。

クワの害虫である。分布は北海道と琉球を除く日本全土で, 今のところ国外からの記録はない。

兵庫県下での記録もあまり多くない。

産地: 宍粟郡波賀町音水 (lex., 20-VII-1959), 波賀町坂ノ谷 (lex., 22-VII-1979)。氷上郡〔山本, 1953, 1958〕。朝来郡和田山町宝山 (lex., 26-VI-1994)。

Subfamily Synetinae Edwards ホソハムシ亜科

Genus *Syneta* Lacordaire

91. *Syneta adamsi* Baly, 1877

カバノキハムシ (ホソハムシ)

Balyにより, 対馬・ウラジオストク・満州産の標本をもとに記載された種である (Ann. Mag. Nat. Hist. ser.4, p.378, 1877)。

中根猛彦博士が上高地・日光産に基づいて記載した *S. major* (Fragm. Col. ed. T. Nakane(5), p.19, 1963) も本種のことである。

体色はきわめて変異に富み, 淡色の個体ではほぼ全体が黄褐色から赤褐色であるが, 暗色の個体ではほぼ全体が黒褐色である。雄の後肢けい節の末端部は正常。

食草として, カンバ類, シデ類, ブナなどが知られている。分布は琉球を除く日本全土, サハリン, シベリア, 中国。

兵庫県下にも広く分布している。

産地: 川辺郡猪名川町槻並 (2exs., 4-V-1979)。神戸市北区山田町谷上 (14♂5♀, 7-V-1961)。多可郡加美町三谷 (lex., 24-V-1975), 加美町鳥羽 (lex., 1-V-1975, etc.)。朝来郡朝来町須留ヶ峰 (lex., 9-VI-1975, M. Yuma leg.)。神崎郡大河内町砥ノ峰 alt.830m〔木元・日浦, 1971〕 (2exs., 7-V-1977, etc.)。揖保郡新宮町福原 (lex., 15-V-1992)。相生市三濃山 (2exs., 3-V-1969, etc.)。宍粟郡一宮町福知溪谷 (2exs., 3-VI-1975, M. Yuma leg.)。波賀町音水 (3exs., 21-V-1979)。多紀郡篠山町小金岳〔山本, 1953, 1958〕。篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕。氷上郡柏原町 (1♂1♀, 10-V-1953)。豊岡市三開山〔上田,

1996〕。城崎郡三川山〔高橋, 1975〕。養父郡関宮町氷ノ山 (lex., VII-1955)〔高橋, 1975, 上田, 1996〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 上田, 1996〕。村岡町兎和野〔磯野, 1985〕。

Subfamily Chrysomelinae ハムシ亜科

Genus *Chrysolina* Motschulsky

92. *Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim, 1825)

ヨモギハムシ

アルタイ地方産に基づき, Mannerheimが*Chrysomela aurichalcea*として記載した種である (1825, in Hummel. Essaia Ent.4, p.39)。

Motschulskyが日本産について記載した, *Chrysomorpha quadrangula* (1860, Schrenk's Reisen Amurl. 2, 226, pl.11, fig.10) および, *Anopachys violaceicollis* (1861, Etud. Ent., 10, p.21) は, 共に本種のシノニムである。

一般に黒青色, 紫青色, 赤銅色。上翅の点刻は不規則, 肩部は明瞭に隆起する。体長7-10mm。食草はヨモギ。分布は日本全国で, 海外における分布も広い。

兵庫県下にも, ごく普通に見られる種である。

産地: 津名郡津名町常隆寺山, 津名町大町〔堀田, 1978〕, 淡路町岩屋, 一宮町, 五色町〔鈴木・櫻井, 1979〕。洲本市桑間〔堀田, 1978〕, 塩屋〔鈴木・櫻井, 1979〕, 洲本市鮎屋〔酒井, 1973〕。三原郡南淡町灘〔酒井, 1973〕, 三原町福良〔酒井, 1973, 鈴木・櫻井, 1979〕。川西市笹部, 若宮, 大和〔仲田, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。尼崎市南西部〔新家, 1992〕。宝塚市〔S. Suzuki etc., 1975〕, 売布ヶ丘, 美幸町〔水野, 1993〕。西宮市香櫨園 (lex., 5-V-1942)。Hiogo〔Harold, 1876, Heyden, 1879〕。神戸市東灘区御影〔関, 1933〕, 六甲山 (2exs., 24-IX-1938, etc.)。中央区布引 (4exs., 17-V-1959), 兵庫区烏原 (4exs., 2-XI-1938, etc.)。北区山田町箕谷 (5exs., 23-X-1938), 北区山田町下谷上 (lex., 30-X-1979, etc.)。北区藍那 (lex., 22-V-1978, etc.)。北区道場 (lex., 13-IV-1974), 垂水区東垂水〔木元, 日浦, 1964〕, 須磨区妙法寺 (lex., 8-XI-1978), 西区押部谷町木見 (lex., 28-IX-1990), 西区木津 (lex., 11-V-1984), 西区伊川谷町前開 (2exs., 7-VI-1988, etc.)。明石市明石公園 (2exs., 3-XI-1974, etc.)。松崎 (6exs., 25-X-1973)。三木市細川町細川中 (2exs., 22-V-1985, etc.)。美囊郡吉川町 (lex., 6-VI-1985)。三田市長沢寺 (lex., 3-VI-1978)。加西市畑 (2exs., 23-VI-1974)。加東郡社町 (3exs., 8-V

-1972). 多可郡加美町三谷 (lex., 15-IX-1974). 神崎郡大河内町川上 (3exs., 4-VI-1977, etc.). 飾磨郡家島町家島 [上田, 1981]. 揖保郡新宮町福原 (lex., 22-VI-1992, etc.). 宍粟郡一宮町福知溪谷 (lex., 3-VI-1975, M.Yuma leg.). 波賀町音水 (2exs., 24-VI-1973). 波賀町坂ノ谷 (lex., 9-VI-1973). 多紀郡篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 氷上郡 [山本, 1953, 1958]. 朝来郡和田山町玉置 [上田, 1996]. 出石郡出石町 [高橋, 1963]. 豊岡市立野 [上田, 1996]. 城崎郡日高町 (5exs., 25-X-1985, etc.). 日高町上郷, 香住町土生, 香住町佐津, 竹野町林 [上田, 1996]. 養父郡関宮町氷ノ山 [中根, 1953], 八鹿町妙見山 [上田, 1996]. 美方郡温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972, 高橋, 1975, 上田, 1996], 浜坂町 (lex., 17-X-1978), 浜坂町味原, 城山 [磯野, 1985].

f. *kiotensis* Bechyné, 1950 ドウガネ型 (*cupreans* form.)
産地: 神戸市六甲山 (lex., 10-IX-1987), 兵庫区島原 (lex., 22-XI-1961, etc.). 加東郡杜町 (2exs., 8-X-1972). 多可郡加美町三谷 (lex., 8-VI-1975), 鳥羽 (lex., 5-VII-1975). 神崎郡大河内町川上 (lex., 4-VI-1977, etc.). 朝来郡生野町 (2exs., 8-VII-1956). 宍粟郡波賀町音水 (lex., 24-VI-1973).
註) オオヨモギハムシ *Chrysolina angusticollis* Motschulskyの記録が以下のようにみられるが, 現在本州におけるこの種の分布地としては青森県・岩手県が知られているのみであり, 兵庫県下での記録には疑問があるので, ここでは目録中に収録しなかった.
記録: 三原郡南淡町諭鶴羽山, 洲本市先山 [堀田, 1978].

93. *Chrysolina exanthematica* (Wiedemann, 1821)

ハッカハムシ

Wiedemannにより, シベリア産に基づいて *Chrysomela exanthematica* として記載されたものである (1821, Germar's Mag. Ent., 4, p.178). 日本から Motschulsky が *Lithoptera subanea* として記載したのは (1861, Etud. Ent. 10, p.21), この種にあたる.

一般に紫黒色, 体背面は銅黒色. 上翅肩部は強く隆起し, 表面に大小の隆起物を列状に装う. 体長 7.5-9.0mm.

食草はハッカ. 分布は琉球を除く日本全国, 朝鮮半島, シベリア, モンゴル, 中国, 台湾, インド北部と広い.

兵庫県下での分布は広いが, 個体数はそれほど多くないように思われる.

産地: 神戸市東灘区御影 [関, 1933]. 三田市内 (lex., 21-IX-1941). 加東郡東条町森 (lex., 4-VII-1984). 宍粟郡波賀町音水 (lex., 21-V-1972), 波賀町坂ノ谷 (lex., 9-VI-1973). 氷上郡 (青垣町) 神楽村 [山本, 1953, 1958]. 朝来郡和田山町枚田岡 [上田, 1996]. 出石郡出石町 [高橋, 1963]. 城崎郡城崎町 (lex., 25-X-1978), 香住町畑 [高橋, 1978]. 美方郡浜坂町 [磯野, 1985].

94. *Chrysolina nikkoensis* (Jacoby, 1885)

ニッコウルリハムシ

Jacobyにより, Nikko, Yunoshiku, Urasaを産地に *Chrysomela nikkoensis* として記載された種である (Proc. Zool. Soc. London, 1885, p.207).

一般に黒青色. 前胸背板は平滑で, 中央部に点刻をほとんど欠く. 上翅には2列1組の点刻を装う. 体長 6.0-6.5mm. 食草はオトギリソウ. 分布地は本州と佐渡島のみである.

兵庫県下からは次の記録があるのみで, よく調べてみなくてはならない種である.

産地: 氷上郡春日町黒井 [山本, 1953, 1958].

註) 美方郡温泉町扇ノ山から, *Chrysolina shikokensis* Nakane, 1960の記録がある [lex., 12-VI-1961, K. Tsuji leg., T. Nakane det., 辻・岸田, 1972]. この種は *C. yezoensis* (Matsumura, 1911) のシノシムとされているが (Takizawa, 1970), 分布からして, *Chrysolina aeruginosa* (Faldermann, 1835) クロルリハムシである可能性がある. 標本を見ていないので, ここでは保留種としておく.

Genus *Chrysomela* Linnaeus

95. *Chrysomela populi* Linnaeus, 1758 ドロノキハムシ
ヨーロッパ産をもとに, Linnaeusにより記載された種である (Syst. Nat. ed. 10, p.370, no locality cited., 1758). 日本からの最初の記録は, Motschulsky による *Lina populi* としてのものである (1866).

一般に黒青色で, 上翅は赤褐色. 会合部末端に小黒紋を装う. 前胸背板側縁は湾曲し, 幅は長さの約2倍. 体長 10-12mm. 食草はヤナギ類, ドロノキ. 分布は大変広く, 日本では琉球を除く全土である.

兵庫県下にも広く分布しており, 個体数も多い.
産地: 川辺郡猪名川町内馬場 [仲田, 1970, 1978, 1982]. 川西市多田 (2exs., 19-VI-1938). 宝塚市売布が丘 [水野, 1993]. 西宮市甲東園 [戸沢, 1936]. 神戸

市東灘区御影〔関, 1933〕, 兵庫区烏原 (2exs., 9-VIII-1938, etc.), 北区山の街 (3exs., 12-VI-1949), 西区木津 (3exs., 2-VII-1984, etc.). 小野市山田町 (4exs., 23-VI-1987). 加東郡東条町森 (2exs., 18-V-1984). 加西市畑 (3exs., 17-VI-1974). 多可郡加美町鳥羽 (1ex., 5-VII-1955). 神崎郡大河内町砥ノ峰 alt.830m〔木元・日浦, 1971〕 (1ex., 7-V-1977, etc.). 龍野市神岡町 (1ex., 26-V-1986, etc.). 佐用郡南光町船越山〔木元・日浦, 1964〕. 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 16-VI-1975, M. Yuma leg.), 波賀町水谷 (1ex., 17-VII-1981), 波賀町坂ノ谷 (1ex., 22-VII-1979). 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕. 出石郡出石町〔高橋, 1963〕. 朝来郡和田山町枚田岡〔上田, 1996〕. 城崎郡竹野町三原, 三川山〔高橋, 1975〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (6exs., 27-VII-1956, etc.)〔上田, 1996〕, 関宮町鉢伏高原〔上田, 1996〕, 大屋町建屋〔村山, 1953〕. 美方郡鉢伏山〔高橋, 1975〕, 温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975〕, 浜坂町〔磯野, 1985〕.

96. *Chrysomela vigintipunctata* (Scopoli, 1763)

ヤナギハムシ

Scopoliにより, ヨーロッパ中部産に基づき, *Coccinella vigintipunctata*として記載された種である (Ent. Corn., p.78, no locality cited, 1963).

Balyが1874年に長崎から記録した *Lina 20-punctata* Scop.がこの種を指しており, 日本からの最初の記録となる.

上翅は黄褐色, 左右それぞれ10個の黒紋を装い, 前胸背板は黒青色. 触角は黒色. 肢は黒色で, たい節の基部, けい節の一部は黄褐色. 体長6.8-8.5mm. 食草はヤナギ類. 分布は琉球を除く日本全土のほか, 朝鮮半島, シベリア, モンゴル, ヨーロッパ, インド北部, 中国と広い.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 洲本市安乎町〔堀田, 1956〕. 三原郡成相峠〔大野, 1969〕. 尼崎市西南部〔新家, 1992〕. 宝塚市大成町〔水野, 1993〕. 神戸市東灘区御影〔関, 1933〕, 兵庫区烏原 (1ex., 4-IV-1954, etc.), 西区木津 (4exs., 2-IV-1984), 西区広野 (神出町) (4exs., 12-IV-1958), 北区山田町丹生山麓 (31exs., 18-V-1958), 北区藍那 (1ex., 26-V-1993), 伊川谷町前開 (2exs., 7-VI-1988, etc.). 美囊郡吉川町奥山 (1ex., 5-VI-1996). 加東郡東条町森 (15exs., 7-VI-1984, etc.). 氷上郡〔山本, 1953, 1958〕. 豊岡市百合地, 立野〔上田,

1996〕. 城崎郡日高町道場〔高橋, 1975〕, 日高町神鍋, 上郷〔上田, 1996〕, 奈佐路 (7exs., 22-V-1986). 養父郡関宮町氷ノ山〔奥谷, 1955〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔辻・岸田, 1972, 上田, 1996〕.

Genus *Gastrolina* Baly

97. *Gastrolina depressa* Baly, 1859 クルミハムシ

Balyが中国北部産に基づいて記載した種である (Ann. Mag. Nat. Hist. (3), 4, p.61, 1859). 同じく BalyがAmur産で *Gastrolina thoracica*として記載したものは (Trans. Ent. Soc. London, (3), 2, p.228, 1864), 本種と同じものである. 日本からはBalyにより1874年に *Gastrolina thoracica*として記録されている.

一般に黒色, 上翅は紫青色. 前胸背板は中央部が紫青色で, 側方部が赤褐色. 触角および肢は黒色. 前胸背板の側縁は前方に拡大する. 体長6.8-8.2mm.

食草としてオニグルミ, サワグルミなどが知られている. 琉球を除く日本全土に分布する.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978〕. 宝塚市玉瀬〔水野, 1993〕. 神戸市北区山田町丹生山 (3exs., 5-V-1956), 北区山田町谷上 (4exs., 18-V-1958), 兵庫区烏原 (1ex., 16-VI-1984). 相生市三濃山〔大野, 1967〕 (35exs., 7-V-1972). 揖保郡新宮町福原 (2exs., 20-VI-1976), 波賀町音水 (6exs., 21-V-1972, etc.), 波賀町赤西 (2exs., 3-VI-1979), 波賀町坂ノ谷 (2exs., 9-VI-1973). 氷上郡 (青垣町) 神楽村〔山本, 1953, 1958〕. 朝来郡和田山町糸井溪谷〔上田, 1996〕. 出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕. 城崎郡三川山〔高橋, 1975, 上田, 1996〕. 養父郡関宮町氷ノ山〔上田, 1996〕, 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕. 美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975, 上田, 1996〕, 浜坂町城山〔磯野, 1985〕.

98. *Gastrolina peltoides* (Gebler, 1832)

ミヤマヒラタハムシ

Geblerが東シベリア産をもとに, *Chrysomela peltoides*と記載した種である (Nouv. Mem. Moscou, 2, p.74). 日本からはJacobyが *Gastrolina japonica*として記載したのが最初の記録である (Proc. Zool. Soc. London, 1885, p.210, pl.11, fig.12).

体は黒色で, 上翅は紫青色. 肢は黒色. 前胸背板は中央部が紫青色, 側方部は赤褐色. 個体によりたい節, けい節の基部は部分的に赤褐色. 前胸背板は前方に向かって狭まる. 体長6.2-7.7mm. 食草はケヤマハンノキ.

日本では北海道, 本州, 四国に分布している。兵庫県下の記録は大変少ない。よく調べる必要がある。
産地: 養父郡関宮町氷ノ山〔上田, 1996〕。美方郡温泉町扇ノ山〔高橋, 1975〕。

Genus *Gastrolinoides* Chûjô et Kimoto

99. *Gastrolinoides japonicus* (Harold, 1877)

ズグロキハムシ

Haroldが日本(萩)から*Melasoma japonica*として記載した種である(Dtsche Ent. Z., 21, p.361, 1877)。

体は赤褐色, 頭部と触角は黒色。腹面は赤褐色。後胸前側板は黒色。肢は黄褐色。たい節基部, ふ節は黒色。体長5.6-6.2mm。食草はイヌシデ, トサミズキ。分布は日本の本州・四国・九州である。

兵庫県下にも広く産するが, 個体数はそれほど多くない。

産地: 神戸市六甲山〜紅葉谷 (2exs., 18-VI-1967)。相生市三濃山 (1ex., 1-VI-1974)。宍粟郡波賀町音水 (2exs., 4-V-1972)。城崎郡城崎町来日岳〔上田, 1996〕。美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 1972, 上田, 1996〕。温泉町霧ヶ滝, 浜坂町宇都野神社〔磯野, 1985〕。

Genus *Gastrophysa* Chevrolat

100. *Gastrophysa atrocyanea* Motschulsky, 1860

コガタルリハムシ

Motschulskyが東シベリア産で記載した種である(1860, Schlenk's Reisen Amurl., 2, p.222, pl.11, fig.3)。

体全体, 触角, 肢は黒青色。背面は強い点刻を密に装う。上翅の点刻は全体不規則に装う。体長5.2-5.8mm。食草はギンギシ。分布は北海道と琉球を除く日本全土, 海外では朝鮮半島, シベリア, 中国, 台湾, インドシナ。

兵庫県下には広く分布している。早春に多い。

産地: 津名郡津名町常隆寺山 (5exs., 20-IV-1974)。伊丹市〔河上, 1984〕。伊丹市猪名川畔 (7exs., 30-III-1986)。宝塚市売布ヶ丘〔水野, 1993〕。芦屋市内 (5exs., 16-III-1958)。神戸市兵庫区鳥原 (3exs., 6-IV-1982, etc.)。須磨区多井畑 (1ex., 2-VIII-1941, etc.)。北区藍那 (6exs., 21-IV-1993, etc.)。北区道場 (6exs., 13-IV-1974)。北区八多町屏風 (1ex., 4-VI-1993)。朝来郡和田山町枚田岡〔上田, 1996〕。豊岡市立野〔上田, 1996〕。城崎郡日高町赤崎〔上田, 1996〕。養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955, etc.)。美方郡村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕。

Genus *Goniocтена* Chevrolat

101. *Goniocтена japonica* Chûjô et Kimoto, 1960

トホシハムシ

中條道夫・木元新作両博士により, 日本各地産の標本をもって記載された種である(Niponius, Vol.1, No.4, p.5, fig.1,2, 1960)。体は赤褐色。上翅に5対, 前胸背板に1対の黒色紋を装う。食草としてハンノキが知られている。分布は日本の北海道, 本州, 四国, 九州である。

兵庫県下での記録は大変少ない。詳しい調査を必要としている種である。

産地: 川辺郡猪名川町民田, 上阿古谷〔仲田, 1982〕。川西市畦野〔仲田, 1982〕。養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955)。

102. *Goniocтена nigroplagiata* Baly, 1862

ヤツボシハムシ

Balyが日本産で記載した種である(Ann. Mag. Nat. Hist., (3), 10, p.28, 1862)。Jacobyが兵庫産で記載した*Phytodecta robusta* (Proc. Zool. Soc. London, p.209, 1885)がこの種にあたる。

体は赤褐色, 上翅に4対の黒色紋を装う。個体により上翅の黒色紋は拡大し, 最も暗色の個体では全体が黒色となる。体長5.0-6.0mm。食草はエノキ。分布は本州と中国南部。

兵庫県には古い記録はあるが, 最近の追加記録がほとんど見られない。調査が必要な種である。

産地: Hiogo〔Jacoby, 1885〕。美方郡浜坂町城山〔磯野, 1985〕。

103. *Goniocтена rubripennis* Baly, 1862

フジハムシ

Balyにより日本から記載された種である(1862, Ann. Mag. Nat. Hist., (3), 10, p.28)。一般に黒色, 上翅は赤褐色, 個体によって中央に黒色の縦条を持ち, 時に全体が黒色。体長4.5-6.0mm。食草はフジ。分布は琉球を除く日本全土。

兵庫県下にも普通に見られる種である。

産地: 津名郡開鏡 (1ex., 24-V-1942)。愛宕山〔大野, 1969〕。三原郡諭鶴羽山, 成相峠, 洲本市鮎屋〔大野, 1969〕。洲本市先山〔大野, 1969, 堀田, 1978〕。川西市一ノ鳥居, 笹部, 横地〔仲田, 1978, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市武田尾〔木元・日浦, 1964〕。玉瀬, 上佐曾利〔大野, 1993〕。神戸市六甲山 (1ex., 8-V-1955, etc.)。兵庫区鳥原 (1ex., 2-V-1939, etc.)。北区山の街 (1ex., 22-V-1949, etc.)。北区谷上

(2exs., 29-IV-1958), 西区広野 (10exs., 15-IV-1956), 北区藍那 (1ex., 22-V-1978, etc.), 北区淡河町芦谷溪谷 (1ex., 11-VI-1982), 西区木津 (1ex., 11-V-1984, etc.), 西区伊川谷町前開 (2exs., 19-V-1988, etc.), 北区八多町屏風 (1ex., 6-V-1993), 加東郡東条町森 (3exs., 29-IV-1984, etc.), 社町三草 (1ex., 15-V-1987), 神崎郡笠形山 (1ex., 12-VI-1975), 大河内町川上 (2exs., 7-V-1977, etc.), 多可郡加美町白山 (1ex., 3-V-1973), 加美町三谷 (1ex., 8-VIII-1975), 加美町鳥羽 (2exs., 29-IV-1972, etc.), 揖保郡新宮町福原 (3exs., 15-V-1992), 相生市三濃山〔大野, 1967〕 (1ex., 3-V-1969, etc.), 宍粟郡一宮町福知溪谷 (1ex., 20-VI-1976), 波賀町水谷 (1ex., 17-VII-1981), 波賀町音水 (2exs., 4-V-1972), 氷上郡柏原町 (1ex., 10-V-1953)〔山本, 1958〕, 多紀郡篠山町雨石山〔林ほか, 1995〕, 朝来郡和田山町糸井溪谷〔上田, 1996〕, 出石郡出石町寺坂〔高橋, 1965〕, 城崎郡三川山〔高橋, 1975, 上田, 1996〕, 日高町大岡山〔高橋, 1975〕, 日高町奈佐路 (1ex., 22-V-1986, etc.), 竹野町三原〔上田, 1996〕, 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955)〔上田, 1996〕, 養父郡八鹿町妙見山〔上田, 1996〕, 美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 上田, 1996〕, 村岡町銚子ヶ谷〔上田, 1996〕, 浜坂町味原, 宇都野神社, 城山, 観音山, 村岡町兎和野〔磯野, 1985〕.

104. *Gonioctena takahashii* Kimoto, 1963

ヒメトホシハムシ

木元新作博士により, 栃木・徳島・長野各県産の標本をもとに新種記載された種である (Fragm. Col. ed. Nakane(4), p.15, 1963).

赤褐色. 背面の不鮮明な黒色紋には変異が多く, とくに全体が赤褐色あるいは暗褐色. 肢は黒色. 体長 5.6-6.0mm. 食草はヤナギ類, 分布は本州, 四国である.

兵庫県下からは次の記録があるだけである.

産地: 養父郡関宮町氷ノ山 (1ex., 24-VII-1955).

Genus *Linaeidea* Motschulsky

105. *Linaeidea aenea* (Linnaeus, 1758) ルリハムシ

Linnaeusにより, ヨーロッパ産をもとに *Chrysomela aenea* として記載された種である (1758, Syst. Nat. ed. 10, p.369). Balyが1874年, 横浜・函館から *Linaeidea* として記録したものが, 日本からの最初の記録となる.

地理的変異に富み, 原亜種では全体が金緑色で, 肢

は黒青色である. 本州南岸沿いに分布し, 肢が赤褐色のものは, subsp. *tsutsuii* Nakane, また四国・九州に分布し, 前胸背板と肢が赤褐色のものは, subsp. *insularis* Chûjô とされる. 体長は 6.8-8.2mm. 食草はハンノキ類, カバノキ類など. 分布は広く, 琉球を除く日本全国のほか, 国外ではサハリン, シベリア, 中国東北部, ヨーロッパ.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 川西市芋生〔仲田, 1979, 1982〕, 宝塚市切畑長尾山, 上佐曾利〔水野, 1993〕, 神戸市六甲山〔藤田, 1962〕 (5exs., 18-VI-1967, etc.), 教育植物園 (2exs., 9-VII-1961), 北区逢山峡 (9exs., 2-VII-1982, etc.), 氷上郡〔山本, 1958〕, 加東郡社町三草 (1ex., 14-VII-1989), 神崎郡大河内町川上 (1ex., 4-VI-1977), 豊岡市円山川公苑〔上田, 1996〕, 養父郡関宮町氷ノ山 (19exs., 24-VII-1955, etc.), 関宮町鉢伏山〔高橋, 1975〕, 八鹿町妙見山〔上田, 1996〕, 美方郡温泉町扇ノ山〔辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 高橋, 1975〕, 村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕.

Genus *Phaedon* Latreille

106. *Phaedon brassicae* Baly, 1874

ダイコンサルハムシ

Balyにより, 長崎産で記載された種で (Trans. Ent. Soc. London, 1874, p.174), 同時にBalyが長崎産で *Phaedon incertum* として記載 (ibid., p.175, 1874) した種はこの *P. brassicae* と同一種である.

体全体・触角・肢は黒青色. 体背面は強く隆起し, 前胸背板には強い点刻を密に装う. 体長 3.3-4.2mm. アブラナ科蔬菜の害虫である.

分布は北海道を除く日本全土. 国外では朝鮮半島, 中国, 台湾, インドシナ.

兵庫県下にも広く分布している.

産地: 川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕, 宝塚市武田尾 (1ex., 25-VII-1954), 武庫川 (2exs., 24-IV-1983), 神戸市六甲山 (3exs., 9-V-1955, etc.), 中央区二十渉 (2exs., 16-VI-1955), 兵庫区鳥原 (1ex., 2-VIII-1957, etc.), 北区山の街 (1ex., 5-V-1954, etc.), 北区逢山峡 (2exs., 2-VII-1982), 北区淡河町芦谷溪谷 (8exs., 13-IX-1982), 北区石楠花山 (1ex., 1-VI-1984), 西区伊川谷 (1ex., 13-V-1988), 三田市内 (2exs., 21-IX-1941), 明石市明石公園 (1ex., 15-VI-1945), 美囊郡吉川町 (2exs., 27-VI-1985, etc.), 神崎郡大河内町川上 (4exs., 7-V-1977), 多可郡加美町鳥羽 (2exs., 1-VI-1975, etc.), 相生市三

濃山 (lex., 6-V-1973, etc.). 氷上郡〔山本, 1958〕. 出石郡出石町〔高橋, 1963〕. 豊岡市船町〔高橋, 1976〕. 養父郡関宮町氷ノ山 (3exs., 24-VII-1955).

Genus *Plagiodera* Chervolat

107. *Plagiodera vericolora* (Laicharting, 1781)

ヤナギリハムシ

個体変異に富むが、日本産の個体群では体全体が青色。上翅の点刻は不規則。体長3.3-4.4mm。食草はヤナギなど。分布は大変広く、日本全土のほか、インド北部、ヨーロッパ、アフリカ北部などにも産する。

兵庫県下にも広く普通に分布している。

産地：三原郡南淡町論鶴羽山、三原町成相峠、洲本市鮎屋〔大野, 1969〕. 川辺郡猪名川町木間生〔仲田, 1982〕. 川西市笹部、見野、初谷川〔仲田, 1982〕. 伊丹市〔河上, 1984〕. 宝塚市境野、売布ヶ丘〔水野, 1993〕. 西宮市盤滝 (2exs., 22-V-1987, etc.). 神戸市六甲山 (lex., 8-V-1955, etc.). 灘区摩耶山 (lex., 14-VII-1955). 兵庫区烏原 (lex., 24-VII-1939, etc.). 西区伊川谷 (2exs., 13-V-1988, etc.). 須磨区多井畑 (7exs., 19-VI-1990). 八多町屏風 (3exs., 6-V-1993, etc.). 三木市口吉川町 (4exs., 4-IX-1986). 大村 (lex., 10-V-1990). 美囊郡吉川町 (2exs., 11-VII-1985, etc.). 吉川町奥山 (8exs., 8-V-1986, etc.). 小野市来住町 (2exs., 26-VI-1991). 加東郡東条町森 (8exs., 11-V-1984, etc.). 神崎郡大河内町川上 (5exs., 7-V-1977). 多可郡加美町三谷 (lex., 13-IX-1975). 加美町鳥羽 (4exs., 8-V-1976). 飾磨郡家島町家島〔上田, 1981〕. 相生市三濃山〔大野, 1967〕 (lex., 6-V-1973, etc.). 赤穂市天和 (6exs., 6-X-1974). 宍粟郡波賀町音水 (2exs., 13-V-1974). 波賀町坂ノ谷 (9exs., 9-VI-1973). 朝来郡和田山町枚田岡〔上田, 1996〕. 出石郡出石町〔高橋, 1963〕. 豊岡市立野〔上田, 1996〕. 城崎郡城崎町ひのそ島、竹野町林、日高町上郷〔上田, 1996〕. 養父郡関宮町大久保谷川〔木元・日浦, 1971〕. 関宮町氷ノ山 (5exs., 2-VIII-1953, etc.). 〔高橋, 1975, 上田, 1996〕. 美方郡浜坂町味原、宇都野神社、観音山、扇ノ山〔磯野, 1985〕. 村岡町鉢北高原〔上田, 1996〕.

Genus *Potaninia* Weise

108. *Potaninia cyrtonoides* (Jacoby, 1885)

アカソハムシ

Jacobyにより日本産をもとに、*Chrysomela*

*cyrtonoides*として記載された種である (Proc. Zool. Coc. London, 1885, p.206).

体は一般に銅黒色。上翅の肩部はほとんど隆起せず、後翅は退化する。触角はやや幅広く、末端節近くでは長さは幅の約1.5倍、密に剛毛を装う。体長4.8-6.0mm。食草はアカソなど。分布は本州、四国、九州、朝鮮半島。

兵庫県下での記録は大変少ない。

産地：宍粟郡波賀町赤西 (lex., 3-VI-1979). 養父郡関宮町氷ノ山〔高橋, 1975, 上田, 1996〕.

但馬むしの会 会員募集
但馬むしの会では新入会員を募集しています。
但馬の自然環境とそこで生活している昆虫、
様々な生き物たちに興味のある方、
是非入会してください！
あなたのお友達や、お知り合いにも
入会をおすすめください！
入会の申し込みは、事務局
〒669-6801 美方郡温泉町井土932-10、
黒井和之まで。

記録による但馬の甲虫相 (兵庫県甲虫相資料・353)

高橋 寿郎

はじめに

筆者は最近兵庫県の甲虫相のまとめに着手しており、西播磨の甲虫相(兵庫生物Vol.10, No.5: 179-181, 1994)、東播磨の甲虫相(1)(2)(きべりはむしVol.21, No.2, pp.37-43, 1993, Vol.22, No.1, pp.7-8, 1994)、六甲山系を中心とした神戸ならびにその近傍の甲虫相(きべりはむしVol.22, No.2: 35-45, 1994)とまとめて、現在音水・赤西溪谷(宍粟郡)の甲虫相のまとめに入っている。ところで但馬地方は筆者自身も、氷ノ山の6回の調査をはじめとして、他にも数地点での調査を何回かやってきているが、なんといっても但馬むしの会の諸氏による調査が詳しく行われている。ただ全体のまとめといったものがないように思われるので、筆者が所有する文献で記録されている但馬の甲虫類をまとめてみた。何らかの参考になればと思っている。

本文を草するにあたり、多くの方々の御協力、御教示を得ている。いちいち御芳名は記さないが、厚く御礼を申し上げさせて頂く。

但馬における甲虫相の研究史

但馬の甲虫相の研究史を、筆者が所有する文献によって眺めてみる。何分にも個人の所有する文献であるから、多くの重要なものが脱落しているのではないかと心配している。皆様の御教示を頂くことができれば幸いである。

なお、文献の番号は便宜的につけたものである。内容の説明はできるだけ簡単にしよう心がけた。*印をつけたものは、直接見る事ができなかった文献である。

1. 北村達明(1937) 兵庫県出石郡神美村で採集した蝶とコガネムシ。昆虫界5(43): 634-636。

これが但馬地域での甲虫に関する報文としては最も古いものではないかと考えられる。神美村という地名が現在のどこを指すのかを調べたが、よく分からなかった。どなたか御存知の方があれば御教示頂きたい。コガネムシ類29種が和名で示され、若干の説明がついている種もある。一応普通に見られるもので同定の問

題はないと考えられる。ただ、26.キンイロセンチコガネとあるのは、オオセンチコガネのことと思われる。
2. 関公一(1941) 兵庫県産の天牛科甲虫。昆虫界9(89): 447-456。

本報文で、産地に“北部山地、某地(採集者の希望により公表せず)”とある種が7種ある。これらはいずれも氷ノ山産のものであり、採集者は黒佐(谷口)和義博士であることを、筆者は執筆者である関氏から直接伺った。その7種とは、コバネカミキリ、トラフハナカミキリ(=トラフホソバネカミキリ)、ルリボシカミキリ、フタオビミドリトラカミキリ、アサカミキリ、ハンノオオリカミキリ(=ハンノアオカミキリ)、ヨツキボシカミキリである。

3. Iga, M. (1949) On the genus *Stigmatium* Gray (1832) of Japan, with description of a new species (Coleoptera: Cleridae). Ent. Rev. Japan 1(2): 36-38.

P.37に*Stigmatium pilosellum* (Gorham)ダングラサビカッコウ(=ダングラカッコウムシ)1♂, Sekinomiya, Hyogo Pref. 17-VI-1948, M. Iga leg.の記録がある。

4. 柴内俊次・中畔史雄(1950) 神戸虫便り。札幌昆虫同好会々報2(1): 3-15。

氷ノ山産の以下の種の記録がある。ミヤマホソハナカミキリ、フタオビミドリカミキリ(=フタオビミドリトラカミキリ)。

5. 伊賀正汎(1950) 日本産ノコヒゲカツコムシ属に就いて。昆虫学評論5(1): 31-34。

Teneroides maculicollis (Lewis) ルイスノコヒゲカツコムシ=キムネツツカッコウムシについて、以下の記録がある。氷ノ山, 1♀, 28-VI-1942, 西村登採集; 香住, 4♂3♀, 15~20-VI-1946, 中川俊夫採集。

6. 野村鎮(1952) 日本及びその近傍のコフキコガネに就て。桐朋学報(2): 24-34。

コフキコガネの産地として、氷ノ山が示されている。
7. 岩田久二男・奥谷禎一・永富昭・中根猛彦(1953) 氷ノ山の昆虫。兵庫生物2(3): 121-125。

甲虫類に関しては中根猛彦が担当しており、9種に

ついでに解説と、95種の目録が示されている。

8. 村山醸造 (1953) 松類穿孔虫防除に関する研究。文部省科学試験場研究報告6: 1-112.

養父郡大屋町建屋村の調査地域で採集した昆虫の目録があり、46種が記録されている(ハムシ科2種、カミキリムシ科7種、クワガタムシ科1種、コガネムシ科6種などを含む)。キクイムシ科は14種記録されており、タキノヤキクイムシ *Xylebonus takinoyensis* Murayama の新種記載がある。

9. Ohbayashi, K. (1954) Five new species of Lycidae from Japan (Coleoptera). Mushi 26(6): 19-22.

氷ノ山産で *Cladophorus incompositus* Ohbayashi が記載されている(1♂, Hyonosen, Hyogo Pref. 30-VII-1952, T. Nakane leg. in coll. Nakane)。現在は *Cautires geometricus* (Kiesenwetten, 1874)、ミダレクロベニボタルのシノニムにされている。

10. 奥谷禎一 (1954) 但馬扇ノ山の昆虫。兵庫生物2(4/5): 206.

カミキリについてルリボシカミキリ他4種の解説がある。

11. 山本義丸 (1954) 氷ノ山の昆虫。Natura (兵庫県立柏原高等学校生物研究会会誌) (11): 7-9.

48種の甲虫のリストがある。

12. 谷口行弘 (1954) 氷ノ山紀行, Natura(11): 26-28.

13. 高橋寿郎 (1954) 兵庫県産糞虫類に就いて(第1報), 兵庫生物2(4/5): 232-236.

但馬産ダイコクコガネ亜科の9種を記録。

14. Chûjô, M. & Nakane T. (1955) Description of a new Mordellid-Beetle from Japan, Studies on the Mordellid-beetles (V). Akitu4(2): 27-29.

氷ノ山からの *Hoshihananomia kurosai* Chûjô et Nakane ウスキボシハナノミの新種記載がある。Holotype: 1♂, Mt. Hyonosen, Mikata-gun, Hyogo Pref. 18-VII-1940, K. Kurosa leg. Allotopotype: 1♀, Mt. Hyonosen, Mikata-gun, Hyogo Pref. 31-VII-1952, T. Nakane leg.

15. Nakane, T. & Hisamatsu, S. (1955) A new species of the Genus *Cyllodes* Erichson from Japan (Coleoptera: Nitidulidae). Akitu4(3): 55-56.

Cyllodes punctidorsum Nakane et Hisamatsu ヨツボシアカマルケシキスイの記載の中に、allotopotypeとして氷ノ山産の1♀がある(18-VII-1940, Kurosa leg.)。

16. 奥谷禎一 (1955) 但馬(兵庫県北部)の好採集地。新昆虫8(5): 16-20.

17. 近畿甲虫同好会編 (1955) 原色日本昆虫図鑑, 甲

虫編。

18. 近畿甲虫同好会編 (1955) 原色日本昆虫図鑑, 甲虫編。増補改訂版274pp. 68col. pl. (保育社, 大阪)

この図鑑の中で、氷ノ山産の甲虫12種がカラーで図示されている。

19. 京都昆虫同好会 (1956) 昆虫採集地案内, 近畿地方。A5, 56pp. (京都昆虫同好会, 西京大学内・京都)

扇ノ山, 氷ノ山が紹介されている。

20. 中根猛彦 (1956) 日本の甲虫 [31] ながはなのみ科。新昆虫9(2): 51-55.

P.54において, *Epilichas monticola* Nakane クロツヤヒゲナガハナノミ, 氷ノ山 (1♂, 30-VII-1952, Nakane leg., 中根, 1953) が記録されている。

21. 高橋匡 (1956) 但馬でイッシキキモンカミキリを採集。新昆虫9(10): 51.

養父郡八鹿町日畑 (1ex., 23-VI-1956) の記録。

22. 高橋寿郎 (1956) きれいな甲虫, 兵庫県生物学会誌A5, 95pp. (ref. pp.58-61) (兵庫県生物学会編・神戸新聞社刊)

ミヤマナカボソタムシ (氷ノ山), トゲヒラタハナムグリ (氷ノ山), ムネホシシロカミキリ (氷ノ山), ルリボシカミキリ (氷ノ山), フタオビミドリトラカミキリ (氷ノ山), イッシキキモンカミキリ (八鹿町) の記録がある。

23. 高橋寿郎 (1956) 兵庫県産金亀子虫雑記。兵庫生物3(3): 119-120.

リュウスマグソコガネ (=コブスジマグソコガネ) (氷ノ山), ツヤスジコガネ (氷ノ山), ムラサキツヤハナムグリ (温泉町湯村) の記録あり。

24. 高橋寿郎 (1957) 中胸に3肢を有するゴマダラカミキリ。採集と飼育19(5): 156.

養父郡氷ノ山産の材料による記録。

25. 大槻孝司 (1957) 氷の山採集記。Natura(14): 38-41.

26. 大槻孝司 (1957) 氷ノ山妙見山の昆虫。Natura(14): 41-45.

27. 藤村俊彦 (1957) 邦産ヤツボシハナカミキリの変異について。新昆虫10(3): 12-21.

養父郡八鹿町産の標本もふくまれている。

28. 高橋寿郎 (1958) セスジクビボソハムシ氷ノ山に産す。昆虫学評論9(1): 14.

29. 野村鎮 (1958) 日本及びその近傍のハナノミ属に就いて。桐朋学報(7): 35-38.

氷ノ山から, *Mordella* (s. str.) *truncatopera* Nomura

- キレバネクロハナノミ (2♂♂1♀, 20-VII-1940, K. Kurosa leg., p.8-10) および, *M. (s. str.) oxyptera* Nomuraトガリバクロハナノミ (2♂, 20-VII-1940, K. Kurosa leg., p.10) の記録がある。
30. 高橋寿郎 (1958) 兵庫県産テントウムシ類. 兵庫生物3(4): 258-264.
但馬産のものは14種記録している。
31. 安達鉄美 (1958) 氷の山採集記. *Natura*(15): 12-17.
32. 氷ノ山調査団 (1958) 氷ノ山の昆虫及び植物. *Natura*(15): 17-19.
33. 高橋匡 (1958) 但馬採集地めぐり (1). *Natura* (15): 81-83.
城崎郡香住町奥佐津の三川山を紹介。
34. 高橋寿郎 (1959) 兵庫県のコガネムシ類. 兵庫生物3(5): 365-375.
氷ノ山産26種のコガネムシ類の記録を含む。
35. Kurosawa, Y. (1959) A Revision of the Leaf-minig Buprestid Beetles from Japan and Loo-Choo Islands. *Bull. Nat. Sci. Mus. (Tokyo)* No.43: 202-268.
P.213-214において, *Trachys saundersi* Lewisソウダースチビタムシ (氷ノ山, K. Sakaguchi leg.) の記録あり。
36. 高橋匡 (1959) 氷ノ山の甲虫. *Natura*(16): 24-42.
37. 村上雅昭 (1959) 蘇武・潞川・妙見の昆虫. *Natura*(16): 50-54.
38. 大久保順夫・広瀬邦久 (1959) 氷ノ山採集記. *Natura*(16): 50-54.
39. 高橋匡 (1959) 但馬採集地めぐり (2). *Natura* (16): 100-105.
扇ノ山の案内があり, クワガタムシ, カミキリムシ, ハムシの和名による具体的な記録を含む。
40. 京浜昆虫同好会 (1959) 日本産カミキリ類の生態と採集法一覧. 新しい昆虫採集 (下), pp.361-460. 内田老鶴圃, 東京。
P.400クリストフコトラカミキリ, p.407クビアカトラカミキリの2種に, 香住の記録がある。
41. 中根猛彦 (1959) 邦産コメツキムシ科に関する覚書 (I). あきつ8(4): 91-94.
P.94において, *Metaricus viridis crebneapunctatus* Nakane (オオミドリヒメコメツキ) の新亜種を記載. Paratypesの中に, Hataganaru (美方郡温泉町畑ヶ平) 産がある。
42. 安木五夫・奥谷禎一 (1960) 中国山脈の雄・氷ノ山. 兵庫の自然: 133-135 (のじぎく文庫)。
クワガタムシ・カミキリムシについて若干の説明がある。
43. 奥谷禎一 (1960) 兵庫の北海道・畑ヶ平高原. 兵庫の自然: 151 (のじぎく文庫)。
ルリボシカミキリ, キオビナガクチキ, ムツモンナガクチキ, ヒイロホソナガクチキ, クロアカハネムシ, ヒメオオクワガタの記録がある。
44. 山本義丸 (1960) 県下の昆虫. 兵庫の自然: 166 (のじぎく文庫)。
氷ノ山, 扇ノ山の甲虫としてヒイロホソナガクチキムシ, フタオビミドリトラカミキリ, イッシキキモンカミキリなど, また三川山のミツギリゾウムシなどの記録がある。
45. 高橋寿郎 (1960) 兵庫県産タマムシ類. 兵庫生物4(1): 20-23.
但馬産として11種記録。
46. 加辺正明 (1960) 日本産キクイムシ類の加害樹種と分布. B5, 176pp. (前橋営林局)。
桑山博士が1953年に記録したものがそのまま記録されている。
47. 西村登 (1960) 但馬円山川昆虫誌 (上). 関宮町教育研修会刊, B5, 54pp.
甲虫類について種名が出てくる。
48. 湯浅浩史 (1960) 扇ノ山の昆虫相. 兵庫農大生物研究部部誌(1): 9-12.
概説であるが, 多くの種について和名による産出状況の説明がある。
49. 鈴木清明 (1960) 扇ノ山のゾウムシ類. 兵庫農大生物研究部部誌(1): 18-20.
30種が記録されている。
50. 辻啓介 (1960) 扇ノ山の“はなのみ” Mordellidae について. 兵庫農大生物研究部部誌(1): 20-22.
7種について解説されている。
51. 多田泊二・辻啓介 (1960) 扇ノ山のカミキリムシについて. 兵庫農大生物研究部部誌(1): 23-27.
52種を記録している。
52. 湯浅浩史 (1960) 扇ノ山のコガネムシ (第一報). 兵庫農大生物研究部部誌(1): 29-36.
35種が記録されている。
53. 大槻典男 (1960) 扇ノ山採集記. *Natura*(17): 29-33.
扇ノ山の採集記の中で, コガネムシ, カミキリムシ, ハムシ等が和名で記録されている。
54. 村上雅昭 (1960) 扇ノ山の甲虫. *Natura*(17): 33-35.

- 1959年7月26日～30日の間の甲虫の採集リストである。
55. 高橋匡 (1960) 但馬採集地めぐり (2). *Natura* (17): 106-107.
- 養父郡八鹿町妙見山 (1142m) の解説。カミキリムシ、ハムシ等が若干種、和名で紹介されている。
56. 藤田国男 (1961) 天牛2種の新産地。昆虫学評論 13(2): 68.
- クロオオハナカミキリを氷ノ山から記録。
57. 西村登 (1961) 氷ノ山山麓の滝の動物相。兵庫生物4(2): 79-81.
- 甲虫1種の報告がある。
58. 高橋寿郎 (1961) 兵庫県のカミキリムシ (第1報)。兵庫生物4(2): 88-96.
- 但馬産としては49種を記録。
59. 高橋寿郎 (1961) 兵庫県産テントウムシ類 (第2報)。兵庫生物4(2): 108-109.
- 但馬産は2種を記録。
60. 湯浅浩史 (1961) 扇ノ山のコガネムシ類 (第2報)。兵庫農大生物研究部部誌(2): 54-56.
- 9種1変種を記録している。
61. 辻啓介 (1961) 扇ノ山のカミキリムシ (第2報)。兵庫農大生物研究部部誌(2): 56-62.
- 第1報の訂正並びに53種の追加記録。
62. 辻啓介 (1961) ハネビロハナカミキリとヨツスジハナカミキリの雑交観察について。兵庫農大生物研究部部誌(2): 65-66.
- 扇ノ山で観察。
63. 足立勲 (1961) 扇ノ山採集記。Natura(18): 29-35.
- 末尾に、和名のみではあるが採集リストが示されている。32科104種を記録している。
64. 中条道夫・高橋寿郎 (1961) 兵庫県産ゾウムシ類。Mikado1(2): 17-26. 但馬産のゾウムシ38種を記録。
65. 大倉正文 (1962) チュウジョウアオアトキリゴミムシ本州に産す。昆虫学評論14(2): 34.
- 氷ノ山からの記録。
66. 川津智足 (1962) コジュウジアトキリゴミムシの採集記録。昆虫学評論14(2): 47.
- 養父郡鉢伏山からの記録。
67. 高橋寿郎 (1962) 兵庫県のカミキリモドキ科。兵庫生物4(3/4): 175-176.
- 氷ノ山より10種記録。
68. 山本茂信 (1962) 妙見山資料館奉納妙見山昆虫採集目録。
- 甲虫目20科73種の記録あり。
69. Nakane, T. (1963) New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XIX. *Frag. Coleop. Pars.* 6/7: 26-30.
- Pp.26-27の*Platydemus kurama* Nakaneマルツヤキノコゴミムシダマシに、氷ノ山の記録 (1♀, 29-VIII-1952, Nakane leg.) が出てくる。
70. Nakane, T. (1963) New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXII. *Frag. Coleop. Pars.* 10/11: 42-46.
- P.42の*Epilichas monticola brunneipennis* Nakaneクロツヤヒゲナガハナノミのparatypeに氷ノ山産 (1♂, 30-VII-1952, T. Nakane leg.) がある。
71. 岸井尚 (1963) 高橋寿郎氏蒐集の兵庫県産叩頭虫類。あきつ11(1): 9-13.
- 氷ノ山産13種、扇ノ山産3種の記録がある。
72. Miyatake, M. (1963) Description of two new species of the Genus *Serangium* from JAPAN (Coleoptera: Coccinellidae). *Trans Shikoku Ent. Soc.* 8(1): 13-14.
- Pp.13-14の*Serangium punctum* Miyatakeツグロツヤテントウのparatypeに、扇ノ山産の♀ (11-VI-1961, K. Tsuji leg., in coll. T. Shibata) がある。
73. 湯浅浩史 (1963) 扇ノ山産のコガネムシ類 (第3報)。兵庫農大生物研究部部誌(3): 20-23.
- 9種が記録されている。
74. 辻啓介 (1963) 但馬扇ノ山甲虫目録 (1)。兵庫農大生物研究部部誌(3): 24-47.
- 48科294種を記録すると同時に、中根猛彦博士が同地で採集された13科28種も記録されている。
75. 岸田剛士 (1963) 扇ノ山の歩行虫 (I)。兵庫農大生物研究部部誌(3): 48-50.
- 31種を記録している。
76. 高橋匡 (1963) 出石郡昆虫目録 (第1報)。VITA (兵庫県立出石高等学校科学部生物班会誌) (1): 1-34.
- 51科401種が記録されている。
77. 妙見山資料館 (1963) 妙見山生物資料館報 (第2号)。B5, 22pp.
- 甲虫目は6科20種が記録されている。
78. 林匡夫 (1963) 日本及びその近隣の天牛類の研究 (14)。昆虫学評論15(2): 56-58.
- P.56に、*Prionus sejunctus* Hayashiニセノコギリカミキリが美方郡浜坂に産する記録がある。
79. Kurosawa, Y. (1963) Buprestid-fauna of Eastern Asia (5) (Coleoptera). *Bull. Nat. Sci. Mus. (Tokyo)* 6(2): 90-111.

表題のごとく東部アジアのタマムシのうち、日本のものの多くの新種の記載である。その中でp.107-108に記載された*Agrilus kawarai* Y. Kurosawaホソクロナガタマムシの検視標本中に、花野満男氏が養父郡大屋町西谷で採集された1♂(16-VII-1941)が含まれている。

80. 高橋寿郎(1964)兵庫県産軟鞘類。兵庫生物4(5): 232-233.

ベニボタル科(扇ノ山2種, 氷ノ山7種), ホタル科(扇ノ山1種, 氷ノ山2種), ジョウカイボン科(氷ノ山1種)の記録。

81. 高橋寿郎(1964)兵庫県のカミキリムシ類(第2報)兵庫生物4(5): 248-253.

氷ノ山産35種, 扇ノ山産55種のほか, 八鹿町産1種, 温泉町湯村産1種の記録がある。

82. 辻啓介(1964)扇ノ山甲虫目録(Ⅱ)。兵庫農大生物研究部部誌(4): 15-19.

12科28種を記録している。

83. 湯浅浩史(1964)扇ノ山産のコガネムシ類(第4報)。兵庫農大生物研究部部誌(4): 20.

2種を記録。

84. 妙見山資料館(1964)妙見山資料館報(第3号)。B5, 18pp.

85. 高橋匡(1965)出石郡昆虫目録(第2報)。VITA(2): 1-16.

甲虫類は18科51種記録されている。

86. 高橋寿郎(1965)兵庫県のクワガタムシ。兵庫生物5(1): 38-46.

但馬産は9種を記録。

87. Nakane, T. (1966) New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXIV. Frag. Coleop. Pars. 16/17: 64-69.

P.67に, *Eपुरaea densepunctata* Nakane et Hisamatsuセグロヒラタケシキスイの温泉町畑ヶ平からの記録がある。

88. 高橋寿郎(1966)氷ノ山の甲虫相。兵庫生物5(2): 161-164.

氷ノ山の甲虫相の概説のほか, 科ごとに具体的な種名を挙げながら解説している。

89. 奥谷禎一(1966)氷ノ山。兵庫の自然pp.150-152. 新書版(六月社, 大阪)。

90. 奥谷禎一(1966)兵庫の北海道・畑ヶ平高原。兵庫の自然pp.176. 新書版(六月社, 大阪)。

91. 高橋匡(1966)扇ノ山の昆虫(特に甲虫について)。Natura(23): 14.

92. 兵庫県むしの会(1966)兵庫県におけるゲンジボタルの分布(第1報)。兵庫県むしの会会報(2): 1-3.

93. 山口福男(1966)ゲンジボタルの発生状況の中間報告。兵庫県植物防疫情報(1): 3-4.

94. 高橋寿郎(1967)兵庫県のコガネムシ。兵庫生物5(3/4): 252-259.

但馬産についてはクワガタムシ科3種, コブスジコガネ科1種, センチコガネ科2種, コガネムシ科10種を記録。

95. 高橋寿郎(1967)兵庫県のハムシ(Ⅰ)。兵庫生物5(3/4): 260-266.

県下におけるハムシの研究史と但馬産のハムシ3種の記録。

96. 兵庫県むしの会(奥谷禎一)(1967)。兵庫県下のゲンジボタルの現況と問題点。昆虫と自然2(3): 31-33.

97. 日本自然保護協会(1967)氷ノ山・後山・那岐山国定公園候補地学術調査報告。日本自然保護協会調査報告第32号, B5, 204pp.

98. Nomura, S. (1967) Some New and Remarkable Species of the Coleoptera from Japan and its Adjacent Regions, II. Entom. Rev. Japan 19(2): 52-62, pl.7, 8.

Pp.57-59に, *Tomonis similis* Nomuraフタモンハナノミの扇ノ山の記録(1♂1♀, 16~19-VII & 8-VIII-1961, K. Tsuji leg.)を含む。

99. Habu, A. (1967) Fauna Japonica: Carabidae Truncatipennis Group (Insecta: Coleoptera). B5, 338p. 27pls.

P.179-180に, *Lebis (Poecilothais) iolanthe* Batesコジュージアトキリゴミムシの鉢伏山の記録がある。

100. 大阪自然研究会, 氷ノ山・鉢伏山の自然研究。大阪市立自然科学博物館刊, 文庫版34p.

甲虫類については筆者が“兵庫生物”に発表したものを引用している。

101. 辻啓介(1968)兵庫県における甲虫の分布(第1報)。兵庫生物5(5): 402-404.

ハナノミ科(扇ノ山10種), カミキリムシ科(氷ノ山産12種, 扇ノ山産5種)の記録。

102. 高橋寿郎(1968)兵庫県のハムシ(Ⅱ)。兵庫生物5(5): 405-414.

但馬産は35種を記録。

103. 春沢圭太郎(1968)兵庫県城崎郡三川山の糞虫類。MDK NEWS20(1): 33.

4種が記録されている。

104. 春沢圭太郎(1968)兵庫県におけるエゾマダノ

- コガネの新産地。昆虫と自然3(3): 19.
- 城崎郡香住町畑における記録。
105. Yajima, T. & T. Nakane (1969) On the Species of the Genus *Athemus* Lewis in Japan, with Description of a Few New Forms (Insecta, Coleoptera, Cantharidae). Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo 12(2): 183-189.
- P.188で, *Athemus infusatus* Yajima et Nakaneを温泉町畑ヶ平産の標本 (Holotype, 1♂, 26-V-1955, T. Nakane leg.) に基づいて記載している (この種はその後, 佐藤正孝博士 (1985) によって *A. attristatus* (Kiesenwetter) クロジョウカイの亜種として扱われている)。
106. Kurosawa, Y. (1969) A Revision of the Genus *Platycerus* Geoffroy in Japan (Coleoptera, Lucanidae). Bull. Nat. Sci. Mus. 12(3): 475-484, pl.1.
- 従来のルリクワガタの中に新種と思われるコルリクワガタが含まれていたとして新しく記載した。但馬産の記録が次のとおりある。 *Platycerus delicatulus* Lewis ルリクワガタ: 氷ノ山, *Platycerus acticolis* Y. Kurosawaコルリクワガタ: 氷ノ山, 扇ノ山。
107. Nakane, T. (1969) Fauna Japonica, Lycidae (Insecta: Coleoptera). B5, 224pp. & col. pl.
- 但馬産について次の記録がある。
- ベニボタル (Mt. Hyonosen), アカゲハナボタル (Sekinomiyama, Kumatsugi), ヒメボタル (Mt. Oginosen), カクムネベニボタル (Mt. Hyonosen, Hataganaru), カタアカベニボタル (Kumatsugi), ニセクロベニボタル *Cautires hyonosen* Nakane, 1969 (新種, Mt. Hyonosen)。
108. 奥谷禎一 (1969) 水中に光る毛虫〜ホタルの話。続・兵庫の自然 p.29-32 (のじぎく文庫)。
109. 小島圭三・林匡夫 (1969) 原色日本昆虫生態図鑑 I. カミキリ編。302pp. 56col.pls. (保育社)。
- 次の2種において, 氷ノ山産の個体が図示されている。ヒメコブヤハズカミキリ: pl.35, f.7, p.113 (氷ノ山, VII-1957)。アサカミキリ: pl.50, f.4, p.158 (氷ノ山, VII-1945)。
110. 辻啓介・畑中熙 (1970) クビアカドウガネハナカミキリ兵庫県大屋町明延に産す。昆虫と自然5(4): 31.
111. 高橋寿郎 (1970) 兵庫県のハムシ (IV)。兵庫生物6(2): 143-147.
- ヒゲナガハムシ亜科44種を記録, そのうち但馬産は28種。
112. 辻啓介 (1970) 兵庫県における甲虫の分布 (第2報)。兵庫生物6(2): 159-160.
- 但馬産のタマムシを13種記録。
113. 辻啓介 (1971) 生木に集まるヒメオオクワガタ。月刊むし(8): 33.
- 扇ノ山における観察。
114. 辻啓介 (1971) 兵庫県氷ノ山のカミキリ。月刊むし(8): 76.
- 兵庫県初記録3種 (フタコブルリハナカミキリ, ガロアケシカミキリ, ムネモンヤツボシカミキリ) の記録。
115. Sasaji, H. (1971) Fauna Japonica, Coccinellidae (Insecta: Coleoptera). 340pp. 16col. plates.
- 日本産テントウムシ科の総説である。この中に氷ノ山産の記録が以下のようにある。 *Scymnus (Pullus) doctratomoides* Weise ツマアカヒメテントウ (pp.155-156), *S. (P.) rectoides* Sasaji ニセツマアカヒメテントウ (pp.156-158), *S. (P.) ruficeps* (Ohta) ナガヒメテントウ (pp.161-162)。
116. 木元新作・日浦勇 (1971) 大阪市立自然科学博物館に所蔵されるハムシ類標本 (第3報)。大阪市立自然科学博物館研究報告(25): 1-26.
- 次の但馬産ハムシの記録がある。 *Ziphanginia miyatakei* Kimoto ミヤタケミトビハムシ (p.5・p.24): 養父郡関宮町福定〜氷ノ山で宮武頼夫氏が採集した3頭の標本 (9-VIII-1967) を holotype, paratopotypes として記載したもの。 *Cryptocephalus kiyosatonus* Kimoto モモグロチビツツハムシ (p.10): 養父郡関宮町福定〜氷ノ山 (2exs., 9-VIII-1967, Miyatake leg.), 兵庫県未記録種。 *Monolepta tsushmanum* Kimoto ツシマアシナガハムシ (p.17): 養父郡関宮町大久保 (3exs., 11-VIII-1967, Miyatake leg.), ここでは本州ならびに兵庫県未記録種として記録されたが, *Monolepta nojiriensis* Nakane ヒメウスイロアシナガハムシのシノニムである。
117. 佐々治寛之 (1971) 兵庫県氷ノ山のナガクチキムシ科採集記録。生物研究(15): 79.
118. 辻啓介 (1972) 兵庫県のカミキリムシ。月刊むし(10): 16-22.
- 兵庫県を地域で分け, それぞれのカミキリムシ相を述べている。但馬地域については, 氷ノ山・扇ノ山のカミキリムシ相の解説のほか, それ以外の部分でも3種の記録がある。
119. 辻啓介 (1972) ミツオホシハナノミ本州に産す。月刊むし(10): 36.
- 養父郡鉢伏山 (1♀, 19-VII-1971)。その後の辻氏

からの私信によると、本個体は*Hoshihananomia pirika* Konoオオシラホシハナノミと同定すべきものであるとのことである。

120. 井上健 (1972) ミヤマダイコクコガネの糞中よりツヤケシマグソコガネを多数とる。昆虫と自然7(2) : 33.

朝来郡生野町での記録であるが、ミヤマダイコクコガネは同定間違いではないかと考えられる。

121. 高橋寿郎 (1972) 兵庫県のハムシ (V) . 兵庫生物6(3) : 238-243.

ノミハムシ亜科をまとめ、但馬産は24種を記録。

122. 辻啓介 (1972) 兵庫県からのクロホシタマムシ。兵庫生物6(3) : 243.

城崎郡香住町 (1♂, 20-VI-1946) .

123. 辻啓介 (1972) 兵庫県からの新しい甲虫 (その1) . 兵庫生物6(3) : 243.

Serangium punctum Miyatake, 1963ズグロツヤテントウ (テントウムシ科) の、扇ノ山 (1♀, 11-VI-1961) での記録。

124. 辻啓介 (1972) 兵庫県氷ノ山のカミキリムシ。兵庫生物6(3) : 244-249.

121種を記録。

125. 辻啓介 (1972) 兵庫県からの新しい甲虫, その2, 3 兵庫生物6(3) : 252.

フタモンハナノミの扇ノ山からの記録および、コリクワガタの扇ノ山、氷ノ山からの記録。

126. 奥谷禎一 (1972) 扇ノ山付近の昆虫相について。扇ノ山周辺の自然保護pp.5-6.

127. 高橋匡 (1972) 扇ノ山の昆虫相—自然保護の立場から—。扇ノ山周辺の自然保護pp.9-10. 扇ノ山周辺の自然を守る会発行, B5, 108pp.

126-127は、扇ノ山周辺の自然を守る会の刊行物として、兵庫県生物学会のメンバーが主体となって扇ノ山に関する様々な論文を集めたもので、編者は山本茂信・細見滝造両氏である。全部で108pp.に及び、写真・地図も含まれている。昆虫に関しては上記2論文があり、共に概説であるが、甲虫類の和名による紹介もある。

128. 奥谷禎一 (1972) 扇ノ山および霧ヶ滝の昆虫相。扇ノ山周辺の動物 (I) , pp.9-11. 兵庫県自然保護協会調査資料, 第1集, B5, 48pp.

概説で、甲虫についても若干触れられている。

129. 辻啓介・岸田剛二 (1972) 但馬扇ノ山の甲虫目録。扇ノ山周辺の動物 (I) pp.20-48. 兵庫県自然保護協会調査資料, 第1集.

本文で65科662種、追加として18科33種を記録。

130. 野村鎮 (1972) 日本産ヒゲナガビロウドコガネに就て。桐朋学報(22) : 109-137, pl.1-3.

氷ノ山よりクロホシビロウドコガネ、ヒゲナガビロウドコガネ、ヤマトビロウドコガネ、ホソヒゲナガビロウドコガネ、モモケビロウドコガネの5種を記録している。

131. 石田正明 (1972) 日本産コガネムシ属について。月刊むし(21) : 7-10.

ヒメスジコガネの氷ノ山における記録がある。

132. 辻啓介 (1972) 氷ノ山の甲虫数種について。きべりはむし1(1/2) : 26.

6種を記録し、そのうちミドリカメノコハムシ、セスジカメノコハムシは兵庫県初記録である。

133. 辻啓介・遊磨正秀・畑中熙・森脇久芳 (1972) 1972年度カミキリムシ採集記録。きべりはむし1(1/2) : 27-39.

108種が記録されており、兵庫県未記録の7種を含む。

134. 辻啓介 (1972) スネケブカヒロコバネカミキリ余部に産す。きべりはむし1(1/2) : 39.

135. 西村登 (1972) 岸田川上流の水生昆虫。扇ノ山周辺の自然保護 : 31-37.

甲虫ではヒラタドROMシが記録されている。

136. 畑中熙 (1973) 兵庫県でのカミキリ4種類の採集例。月刊むし(24) : 53.

養父郡大屋町におけるヒラヤマコブハナカミキリの記録がある。

137. 辻啓介・畑中熙 (1973) 兵庫県未記録のタマムシ4種。きべりはむし2(1) : 9.

氷ノ山よりネムノキナガタマムシ、ヤノナミガタチビタマムシを記録。

138. 森田真澄 (1973) 生野でラミーカミキリを採集。きべりはむし2(1) : 28.

139. 兵庫県自然保護協会調査部 (1973) 兵庫県下のホタルの現況。兵庫の自然3(1) : 2-8.

140. 高橋寿郎 (1973) 兵庫県のハムシ (IV) . 兵庫生物6(4) : 296-298.

トゲハムシ、カメノコハムシ亜科を扱い、但馬産は7種を記録。

141. 黒沢良彦 (1974) 日本産タマムシ科概説 (12) . 甲虫ニュース(12) : 1-4.

ホソクロナガタマムシの、養父郡大屋町西谷での記録。

142. 大平廣士・三木岳春 (1974) 兵庫県氷ノ山カミ

キリ3種の採集例。昆虫と自然9(5):7.

フタコブシリハナカミキリ, ムネマダトラカミキリ, ヤマトキモンハナカミキリの記録.

143. 大倉幸彦・遊磨正秀 (1974) 氷ノ山および赤西における天牛採集記録. きべりはむし3(1):7-9.

氷ノ山産を14種記録している.

144. 大倉幸彦 (1974) 三川山麓に於けるヨコヤマトラカミキリの記録. きべりはむし3(1):11.

三川山小城越(標高500m)における採集例(1ex., 8-VI-1974).

145. 遊磨正秀 (1974) 氷ノ山における天牛の記録. きべりはむし3(1):13.

2種を記録.

146. 奥谷禎一 (1974) 中国山地東端の昆虫相. 東中国山地自然環境調査報告pp.173-233. 国定公園3県協議会刊.

甲虫類はオサムシ科を石田裕, カミキリムシ科を大倉幸彦・遊磨正秀, ゾウムシ科を畑中熙, その他を高橋寿郎・辻啓介がそれぞれ担当している. 主として氷ノ山, 扇ノ山産のものである. 70科713種が記録されている.

147. 高橋匡 (1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊. B5, 66pp.

但馬地域で採集された標本の目録で, 甲虫類は62科626種が記録されている.

148. 畑中熙 (1975) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(1). きべりはむし3(2):2-9.

ヒゲナガゾウムシ科およびオトシブミ科について, 氷ノ山, 扇ノ山から37種を記録している.

149. 畑中熙 (1975) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(2). きべりはむし4(1/2):8-15.

ゾウムシ科について, 氷ノ山, 扇ノ山から32種を記録.

150. 辻啓介 (1975) 兵庫県産オトシブミの産地追記. きべりはむし4(1/2):44-45.

氷ノ山・扇ノ山産の8種を記録している.

151. 高橋匡 (1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報).

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊, B5, 24pp.

前報への追加種126種(今回新たに増えた6科を含む)の記録で, すべて但馬産である.

152. 石飛敦郎 (1975) ダイコクの挽歌. 昆虫と自然10(14):19.

朝来郡生野牧場におけるダイコクコガネについて述

べている.

153. 中根猛彦 (1975) 九州(屋久島・種子島を含む)に分布する異節群甲虫について. 国立科学博物館専報(8):161-172, pl.16.

P.166の*Holostrophus morimotoi* Sasajiの項で, 扇ノ山産の標本を記録している.

154. 西村登, 原昌久, 西村好治郎, 中村宏義, 井上弁三 (1975)

兵庫県円山川水底生物調査報告書. 近畿地方建設局豊岡工事事務所刊, B5, 114pp.

円山川水系で採集できる甲虫4種(ヒラタドロムシ, マスダチビドロムシ, 残り2種は種名不明)の記録.

155. Kurosawa, Y. (1976) Notes on the Oriental Species of Coleoptera Family Buprestidae (II). Bull. Nat. Sci. Mus. Ser. A (Zool.)2(2):129-136.

Pp.134-136に*Agrius rokuyai* Y. Kurosawaの新種記載がある. Holotypeとparatypesは3♂で, 養父郡大屋町筏において森本桂博士が採集したものである(17-VI-1951).

156. 大野正男 (1976) オオシロオビゾウムシ. 昆虫と自然11(11):15-18.

城崎郡日高町金山(高橋, 1955)の記録がふくまれる.

157. 黒沢良彦 (1976) 日本産タマムシ科概説(19). 甲虫ニュース(36):1-7.

辻氏が1970年に*Agrius japonicus* Kerremansトガリカラカネナガタマムシとして発表した種は, *A. rokuyai* Y. Kurosawaとして記載された種(*A. tibialis* Lewisのシノニムとなる)に該当することが紹介されている.

158. 高橋匡 (1976) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第4報). 兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊, B5, 20p. 甲虫類は42科138種が記録されている.

159. 磯野昌弘 (1977) ヤノトラカミキリの分布. 昆虫と自然12(1):13.

美方郡浜坂(VIII-1974)における採集記録.

160. 高橋寿郎 (1977) ダイコクコガネは何処へ行く. 兵庫生物7(3):127.

ハチ高原の記録がある.

161. 高橋寿郎 (1977) コヒゲシマビロウドコガネ大屋町田淵山に産す. きべりはむし5(1/2):14.

162. 畑中熙 (1977) 兵庫県産ゾウムシ類の記録(3). きべりはむし5(1/2):21-31.

氷ノ山・扇ノ山における, ゾウムシ科37種, オサゾウムシ科1種の記録.

163. 的場績 (1977) オカダノコギリゾウ氷ノ山に産

す。きべりはむし5(1/2) : 31.

164. 高橋匡 (1977) 「但馬むしの会」発足に寄せて。IRATSUME(1) : 7-12.

糸井 (和田山町) でのキベリハムシの記録あり。

165. *磯野昌弘 (1977) 浜坂産甲虫相の基礎研究。Acuteatus (兵庫県立浜坂高等学校生物部誌) (10) : 32-45.

166. 磯野昌弘 (1978) オオシロオビゾウムシの採集例。昆虫と自然13(1) : 8.

美方郡浜坂町での採集記録。

167. 高桑正敏 (1978) 日本産ハナノミ族の種別分布資料 (1) . 甲虫ニュース(40) : 12.

オオシラホシハナノミの養父郡鉢伏山における記録。

168. 高橋匡 (1978) 但馬地方の昆虫相に関する文献及び資料。IRATSUME(2) : 2-10.

169. 大野正男 (1978) ハラビロハネカクシ。昆虫と自然13(11) : 29-32.

ハラビロハネカクシを兵庫県の記録として筆者の記録が引用されており、それらの標本は次のとおりである。養父郡氷ノ山 (5exs., 27-VII-1956, T. Takahashi leg., Sawada K. det.; 1ex., 15-IX-1973, K. Tsuji leg., Y. Watanabe det. 標本はそれぞれ同定者の手許に保管されている) .

170. 的場績 (1978) 遠山雅夫氏採集の氷ノ山及び扇ノ山産ヒゲナガゾウムシ目録。きべりはむし6(1/2) : 20-22.

14種を記録。

171. 遠山雅夫 (1978) 兵庫県産タマムシの記録 (I) . きべりはむし6(1/2) : 22-23.

クロホシタマムシ (扇ノ山) , トガリカラカネナガタマムシ (扇ノ山) の記録。

172. 高橋匡 (1978) 豊岡高等学校昆虫標本目録 (第5報) .

兵庫県立豊岡高等学校生物教室刊, B5, 14pp.

甲虫目52種の記録がある。

173. 高橋寿郎 (1979) 兵庫県におけるオサムシの分布 (1) . 兵庫生物7(5) : 247-248.

クロカタビロオサムシ, エゾカタビロオサムシ, セアカオサムシ, オオオサムシの, 但馬の記録が含まれる。

174. 磯野昌弘 (1979) ジュウシホシクビナガハムシ日本海沿岸に産す。昆虫と自然14(4) : 35.

175. 高橋匡 (1979) 但馬地方の昆虫相に関する文献資料 (補遺1) . IRATSUME(3) : 6-7.

176. 高橋寿郎 (1979) 但馬地域のオサムシ。

IRATSUME(3) : 33-36.

但馬地域に産する10種のオサムシの分布記録。

177. 高橋寿郎 (1979) 兵庫県におけるラミーカミキリの分布。きべりはむし7(1) : 8-12.

178. 小倉滋 (1979) オオシロカミキリ浜坂町に産す。きべりはむし7(1) : 20.

179. 近畿オサムシ研究グループ (1979) 近畿地方のオサムシ。大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第11集, B5, 83pp.

オサムシ各種の但馬における記録が多く含まれている。

180. 藤本清・山口福男 (1979) クリ園における空中散布が昆虫相に及ぼす影響, ナミテントウ各種アブラムシ類に対する捕食性と薬剤感受性。日本応用動物昆虫学会中国支部会報(21) : 29-36.

研究材料の一部に, 美方郡温泉町にて採集したものが含まれる。

181. 中村覚 (1979) 氷ノ山・鉢伏山の歴史。自刊, B5, 47pp.

「氷ノ山と鉢伏山の生物」という項目でヒメボタルが出てくる。

182. 小林桂助 (1979) ルリヒラタムシをハチ北高原にて採集。きべりはむし7(2) : 28-29.

183. 高倉康男 (1979) 城崎郡産甲虫採集の記録。きべりはむし7(2) : 29.

184. 山地治 (1979) 食痕2題。月刊むし(106) : 8.

養父郡関宮町福定で撮影した, イッシキキモンカミキリの食痕の写真。

185. 穂積俊文 (1979) 都道府県別カミキリムシ科目録要覧。昆虫と自然14(2) : 6-15.

但馬産カミキリムシを記録している文献が示されている。

186. 穂積俊文 (1979) ラミーカミキリの分布。月刊むし(103) : 3-10.

但馬における分布について, 文献から引用されている。

187. 穂積俊文 (1979) 天牛分布あれこれ。昆虫と自然14(4) : 2-9.

ヤノトラカミキリ (氷ノ山, 扇ノ山, 浜坂) , キジマトラカミキリ (扇ノ山) , キバネアラゲカミキリ (氷ノ山) , クロオビトゲムネカミキリ (氷ノ山) の記録がある。

188. Akiyama, K. & S. Ohmomo (1979) Notes on Japanese Buprestidae (I) . Sci. Rep. Yokosuka City Mus. (26) : 67-71.

- アムールムツボシタマムシの扇ノ山の記録あり。
189. * 磯野昌弘 (1979) 兵庫県浜坂産ゾウムシ仮目録. INSECT (岐阜大学生物科学研究会昆虫班誌) 4(1): 13-18.
190. 高橋寿郎 (1980) 兵庫県におけるオサムシの分布 (2). 兵庫生物8(1): 37-39.
- マヤサンオサムシ, ヤコンオサムシ, アキオサムシ但馬の分布記録あり。
191. 高橋寿郎 (1980) 県下の注目すべき甲虫. 鳥と自然(16): 8-14.
- ルリクワガタ, コルリクワガタ (氷ノ山, 扇ノ山), ムネホシシロカミキリ (氷ノ山山麓) の記録がある。
192. 高橋寿郎 (1980) 兵庫県におけるマダラテントウ類の分布について. きべりはむし8(1): 9-11.
- トホシテントウ (氷ノ山, 扇ノ山, 豊岡市), ニジュウヤホシテントウ (出石, 鉢伏山, 扇ノ山), オオニジュウヤホシテントウ (氷ノ山, 湯村, 扇ノ山, 出石) の3種の但馬からの記録がある。
193. 入江幸吉・吉武明 (1980) キバネアラゲカミキリ熊本県御船町に多産. 北九州の昆虫26(3): 79-80.
- Amarube (香住町余部) 産の引用がある。
194. 環境庁 (1980) 日本の重要な昆虫類, 近畿版. B5, 624pp.
- 但馬地方に分布している甲虫21種の記録が含まれている。
195. 高橋匡 (1980) 但馬地方昆虫目録. IRATSUME (4): 13-27.
- 但馬地方のカミキリムシ7亜科200種が記録されている。
196. 高橋匡 (1980) 但馬地方昆虫目録 (予報第4報). IRATSUME(4): 28-41.
- 但馬産ハムシ科11亜科182種が記録されている。
197. 高橋寿郎 (1980) 「但馬地域のオサムシ」補遺. IRATSUME(4): 42.
198. 秋山黄洋 (1980) メスグロコメツキダマシ兵庫県の記録. 月刊むし(115): 39.
- 養父郡関宮町福定 (1♀, 25-VII-1973, 遊磨正秀採集) の記録。
199. 岸井尚 (1960) 日本産シモフリコメツキ属の研究 (2). Bull. Heian High School (24): 1-9, pl.1-7.
- オオシモフリコメツキの, 但馬からの記録がある。
200. 高橋寿郎 (1980) ヒゲコガネとシロスジコガネ. きべりはむし8(2): 8-17.
- ヒゲコガネ (出石郡神美村)・シロスジコガネ (豊岡市大岡山, 美方郡浜坂, 扇ノ山) の記録がある。
201. 磯野昌弘 (1980) キイロナガツツハムシの分布. 昆虫と自然12(14): 16.
- 美方郡浜坂町の記録がある。
202. 高橋寿郎 (1980) 兵庫における *Olenecamptus* 属カミキリムシ3種の分布について. てんとうむし(6): 1-4.
- ムネホシシロカミキリ (出石郡出石町, 養父郡福定, 氷ノ山), オオシロカミキリ (美方郡浜坂町) の記録。
203. 黒田収 (1980) アカジマトラカミキリ (*Anaglyptus bellus* Matsushita et Matsumura) 多数採集す. てんとうむし(6): 24.
- 氷ノ山横行登山口 (30♂♀, 5-X-1980) における記録。
204. 三宅義一 (1980) コブヤハズカミキリ類の分化と分布. 北九州の昆虫27(2): 61-84, pl.5, 6.
- ダイセンコブヤハズカミキリの扇ノ山, 畑ヶ平, 氷ノ山における記録がある。
205. Stebnicka, Z. (1980) Scarabaeidea (Coleoptera) of the Democratic People's Republic of Korea, Acta Zool. Cracov. 24(5): 191-298, 232text figs.
- 以下の種の産地として, Hyonosenが挙げられている. ただしこれらは日本の文献からの引用である.
- Serica boops* Waterhouse (p.252), *Mimela splendens* (Gyllenhal) (p.254).
206. 阪口浩平 (1981) 図説 世界の昆虫5, ユーラシア編. A4, 264pp. (保育社, 大阪).
- 扇ノ山産のアカイロニセハムシハナカミキリ♂が図示されている (pl.23, f.38).
207. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県におけるオサムシの分布 (3). 兵庫生物8(2): 110-112.
- 但馬地域におけるクロナガオサムシ, オオクロナガオサムシ, マイマイカブリの3種の記録。
208. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のナガツツハムシ. きべりはむし9(1): 6-9.
- 但馬産は4種を記録。
209. 高橋寿郎 (1981) 県下2種のコメツキムシの分布. きべりはむし9(1): 22-23.
- ウバタマコメツキ, フタモンウバタマコメツキの但馬からの記録がある。
210. 高橋寿郎 (1981) 県下2種のタマムシの分布. きべりはむし9(1): 23.
211. 内藤親彦 (1981) フタスジカタビロハナカミキリ扇ノ山麓で採集. きべりはむし9(1): 28.
212. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県甲虫相資料・91. きべりはむし9(1): 32-34.

ジュウシチホシハナムグリ, ルリヒラタムシの但馬における記録がある。

213. 西村登 (1981) 兵庫県円山川水系八木川の底性動物. 関宮町史資料集第3巻: 272-332.

若干の甲虫類の記録がみられる。

214. 穂積俊文 (1981) 天牛分布あれこれII. 昆虫と自然16(10): 8-11.

スネケバカヒロコバネカミキリ (兵庫), イボタサビカミキリ (美方郡浜坂町) の記録があるが, いずれも文献からの引用である。

215. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のコガネムシ. 鳥と自然(22): 9-14.

但馬に産するコヒゲシマビロウドコガネ, オオチャイロハナムグリ, トラハナムグリ, オオトラフコガネ, ジュウシチホシハナムグリ, オオヒラタハナムグリの記録がある。

216. 安達留二郎 (1981) ウルシ老木に産卵中のイシキキモンカミキリ. 月刊むし(127): 1&表紙.

美方郡扇ノ山において1979年9月2日に撮影された本種の美しい写真が, カラーで表紙に使われている。

217. 磯野昌弘 (1981) 但馬地方西部のカミキリムシ. IRATSUME(5): 28-35.

81種のカミキリムシを記録。

218. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のアカハネムシ. IRATSUME(5): 36-39.

但馬からは9種を記録。

219. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のシデムシ・チビシデムシ. IRATSUME(5): 40-45.

但馬から11種を記録している。

220. 高橋匡 (1981) 但馬地方昆虫目録 (予報第5報). IRATSUME(5): 46-58.

マメゾウムシ科3種, ヒゲナガゾウムシ科21種, オトシブミ科43種, ミツギリゾウムシ科2種, ホソクチゾウムシ科5種, ゾウムシ科133種, オサゾウムシ科7種の記録。

221. 高橋匡 (1981) 但馬地方昆虫目録 (予報第6報). IRATSUME(5): 59-67.

クワガタムシ科14種, センチコガネ科3種, コブスジコガネ科1種, コガネムシ科105種の記録。

222. 佐藤邦夫 (1981) 兵庫県香住町でヤノトラカミキリを採集. 月刊むし(128): 35.

223. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県甲虫相資料・96. きべりはむし9(2): 27-31.

マヤサンコブヤハズカミキリ, ヒメコブヤハズカミキリ, ダイセンコブヤハズカミキリの但馬での分布に

言及している。

224. 永井正身 (1981) 朝来郡朝来町奥多々良木ダム・黒川ダム動物相. 調査報告書 (昆虫類). 環境科学(株) 刊 (大阪), A4, 8p.

甲虫類8科13種の記録。

225. 野淵輝 (1981) イチゴのクラウンとクリの実を加害するクリノミキクイムシ. 日本応用動物昆虫学会会誌25(4): 294-296.

日本から初めて記録されるクリノミキクイムシ *Poecilips cardamoni* (Schaufuss) の採集記録の中に, 但馬産のもの (8♀♀, Kazumicho, Shirotsaki (Kinosaki), Hyogo, 1973. ex. chestnut, M. Yamashita leg.) が含まれている。

226. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のクビナガハムシ. てんとうむし(7): 106-110.

但馬産は13種を記録。

227. 高橋寿郎 (1981) 兵庫県のトラハナムグリとヒラタハナムグリ. てんとうむし(7): 121-125.

但馬に分布する8種の記録。

228. 市橋甫・生川展行 (1981) 三重県のルリクワガタ属について. ひらくら25(5): 89-92.

ルリクワガタの氷ノ山 (兵庫県) からの記録がある。

229. Makino, T. & T. Nakane (1981) A Revision of the genus *Podabrus* Westwood in Japan (I) (Insecta, Coleoptera, Cantharidae). Rep. Fac. Sci. Kagoshima Univ., (14): 55-63.

日本産クビボソジョウカイ属の分類学的研究論文の第1報である。この中にクビボソジョウカイの温泉町畑ヶ平からの記録がある (pp.58-59)。

230. 澤田佳久 (1982) 甲虫2種の新産地. 昆虫と自然17(4): 35.

養父郡関宮町から *Xylinada striatifrons* Jordan ナガフトヒゲナガゾウムシを記録している (1♀, 8-VIII-1981)。

231. 高橋寿郎 (1983) 兵庫県のツチハンミョウ. *Parnassius*(26): 3-6.

但馬に分布する3種を記録。

232. 高橋寿郎 (1982) 兵庫県のテントウダマシ. きべりはむし10(1): 11-20.

但馬産は7種を記録している。

233. 高橋寿郎 (1982) 兵庫県産 *Cryptocephalus* 属ハムシ4種の分布について. きべりはむし10(1): 29-34.

但馬からは3種を記録している。

234. 谷素彦 (1982) 但馬地方のフン虫-1981年の調査から. IRATSUME(6): 30-35.

- 17種の糞虫の記録。
235. 加野正 (1982) 但馬におけるカミキリムシ採集
目録. IRATSUME(6) : 36-41.
カミキリムシ4亜科45種の記録。
236. 高橋寿郎 (1982) 兵庫県のカッコウムシ.
IRATSUME(6) : 42-45.
但馬から7種を記録している。
237. 高橋寿郎 (1982) 兵庫県のトゲハムシ・カメノ
コハムシ. IRATSUME(6) : 46-56.
但馬産の2科16種を記録。
238. 高橋匡 (1982) 但馬地方昆虫目録 (予報第1
報). IRATSUME(6) : 57-76.
12科302種が記録されている。
239. 木下賢司 (1982) 自宅付近の灯火で採集した昆
虫あれこれ. IRATSUME(6) : 77-79.
豊岡市栄町での調査結果であり、甲虫は11科65種が
和名のみで記録されている。
240. 馬場金太郎・岸井尚 (1982) 対馬産の若干のコ

- メツキムシについて. 越佐昆虫同好会会報(58) : 41-44.
氷ノ山産のチャバネツヤハダコメツキと、対馬産と
の間には差異があり、再検討が必要とある。
241. 高橋寿郎 (1982) 兵庫県のジョウカイモドキ.
きべりはむし10(2) : 18-22.
但馬産6種を記録している。
242. 日浦勇 (1982) 1982年同定会で見た昆虫 (2) .
Nature Study28(12) : 140.
セアカオサムシの関宮町福定における記録が見られ
る。
243. Sasaji, H. (1982) Additions to the Japanese fauna of
the coccinellid tribe Symnini (Coleoptera). Spec. Iss.
Mem. Retir. Emer. Prof. M. Chûjô, 1982: 63-72.
Scymnus (Pullus) chujoi Sasaji なる新種記載があり
(pp.69-72) , paratypesの中に但馬産の個体 (lex.,
Hyonoson, Hyogo Pref. 18-VII-1967, H. Sasaji leg., lex.,
Hyonoson, 26~30-VII-1967, H. Sasaji leg.) がある。

《 IRATSUME の原稿募集 》

IRATSUME 24号 (2000年5月発行予定) の原稿を募集します。

フィールドノートや標本箱に眠ったままになっている記録、

今シーズンの最新成果などを、どんどんお寄せください。

各昆虫のデータのまとめや生態観察記はもちろん、採集記や短報も歓迎します。

また、思い出の虫や懐かしの採集地、今後の抱負といったような内容でも結構ですから、

ぜひご投稿ください。バラエティーに富んだ誌面にしたいと思います。

原稿執筆に際しては、必ず投稿規定をお読みください。

なお、別刷は有料で、50部単位で作成できます。

希望者は、投稿時に部数とあわせてご連絡ください。

原稿の締切は、2000年2月末です。

送付先・問合先は、〒567-0872 茨木市新中条町5-36-102, 谷角素彦まで。

六方田圃のアカトンボ

上田 尚志

はじめに

近年、ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* の増加が各地で報告されており、水田の水管理との関係が指摘されている（赤トンボネットワーク事務局、1996）。当地方でもその傾向が見られるので報告する。

調査した六方田圃は、兵庫県豊岡市の円山川の東に位置し、昭和30年代には野生のコウノトリが生息していた所である。洪水の度に冠水を繰り返す湿地帯で、用水路には多様な動植物が生息していた。近年、基盤整備が完成したのにもない、用水路はコンクリートの排水路となり、水はポンプで田圃に入るようになった。

1996、1997年のデータは筆者が一人で観察したものであるが、1998年のデータは、筆者が参加するコウノトリ市民研究所の子供たちを含めた85名の人数で実施した調査からのものであり、同定も筆者だけで行ったものではない。いずれも採集した後、まとめて種名を確認して放すという手法をとった。

調査結果

六方田圃では3種類のアカトンボが見られた。1996年と1997年は、アキアカネ *S. frequens* が5割以上を占め、ノシメトンボが3割から4割、そしてナツアカネ *S. darwinianum* が若干混じっているという状況であった。

1998年の調査では、午前中、霧が深くトンボがなかなか飛ばなかったが、午前10時頃から霧が晴れ、調査には絶好の天候となった。調査の結果、ノシメトンボの割合が14%と前年までに比べて少なかった。子供たちが多く、アキアカネの方が捕獲しやすかった可能性も考えられるが、捕獲個体数も多かったのも、その日のトンボの状況がある程度反映していると思われる。アキアカネが多かったことについては、1998年はアキアカネが山から下りてくるのがかなり遅く、ちょうど10月下旬にピークを迎えたためと考えられる。観察会のために下見をした10月上旬の時点では、アキアカネの個体数は非常に少なく感じられた。

表1 六方田圃のアカトンボ調査結果

(兵庫県豊岡市駄坂～木内)

年	1996	1996	1997	1998
月日	10/27	11/3	10/10	10/25
アキアカネ ♂	5	7	13	159
♀	17	22	5	247
計	22(52%)	29(63%)	18(56%)	406(82%)
ナツアカネ ♂	1	2	0	8
♀	3	1	0	12
計	4(10%)	3(7%)	0(0%)	20(4%)
ノシメトンボ ♂	12	9	11	48
♀	4	5	3	23
計	16(38%)	14(30%)	14(44%)	71(14%)
総個体数	42	46	32	497

但馬におけるノシメトンボの状況

筆者の手元にある、これまでに報告されているノシメトンボの記録と、筆者のフィールドノートのノシメトンボの記録を抜き出すと、以下のようになる。

採集記録（採集された場所と年だけ抜き出した。カッコ内は採集者名）

1986年 日高町上郷
 1987年 日高町上郷
 1989年 日高町上郷
 1989年 和田山町柳原（吉井光和）
 1990年 豊岡市中郷（山崎喜彦）
 1990年 日高町上郷（山崎喜彦）
 1990年 八鹿町伊佐（山崎喜彦）
 1991年 杉ヶ沢高原（関西トンボ談話会）
 1992年 豊岡市小島・円山川公苑（関西トンボ談話会）
 1993年 竹野町林
 1993年 日高町神鍋高原
 1994年 香住町佐津
 1994年 豊岡市下加陽
 1994年 豊岡市新田・六方田圃

1994年 豊岡市栴江 (宮垣友洋)
 1994年 豊岡市森尾 (宮垣友洋)
 1994年 豊岡市伊賀谷 (宮垣友洋)
 1995年 豊岡市小島・円山川公苑
 1995年 村岡町大笹・ハチ北高原
 1996年 豊岡市新田・六方田圃
 1996年 豊岡市江本
 1997年 豊岡市祥雲寺・コウノトリ郷公園
 1997年 豊岡市小島・円山川公苑
 1997年 日高町十戸
 1997年 日高町神鍋高原
 1997年 豊岡市新田・六方田圃
 1998年 豊岡市新田・六方田圃

但馬で初めてノシメトンボが記録されたのは、1986年の日高町上郷におけるものだと思う。この西の谷地は、かなり広く浅い用水池で水草も多い。岸边は水位がさがると干上がることもあり、その周辺には放棄田からなる湿地、草地在る。

上郷以外の場所でノシメトンボが私のフィールドノートに登場するのは1993年以降であるが、この間、但馬各地で記録が増えている。これらの記録から、ノシメトンボは1980年代の中頃に増え始め、1990年代前半に急速に分布を拡大したと考えられる。

近畿地方でのノシメトンボの増加状況は上田(1997)によると、1985年以降急激に増加していることが指摘されており、当地方においてもこれとほぼ一致する。

ただ、但馬にもともと生息しなかったかどうかは、はっきりとしない。この件に関して、会員諸氏のフィールドノートの中から但馬の情報が多数寄せられ、さらに正確な状況がつかめることを期待したい。

おわりに

10年以上前、但馬むしの会でアカトンボ調査と、アカトンボ観察会を実施したことがあった。今はもうないが、円山川公苑の小さな池にキトンボがいたのをよく覚えている。とても美しいトンボだ。六方田圃で行った普及行事アカトンボ観察会は、一般参加者が一家族だったが、無数の連結飛行をするアキアカネがいた。もちろんノシメトンボの記録はなかった。あちこちでソバの花が咲いており、休耕田が広がった時期でもある。その後、機械による省力化を進めるため、基盤整備が進んだ。今回の調査は、野生生物が人の暮らしとかわって生活していることを強く印象づけるものであった。

参考文献

- 赤トンボネットワーク事務局 (1996) アキアカネが減り、ノシメトンボが増えている? Symnet 5:10-11.
- 上田哲行 (1997) ノシメトンボ増加傾向についての考察, Symnet 6:6-7.
- 山崎喜彦 (1991) 但馬におけるトンボ目成虫の標本目録 (1984~1990), 和田山中学校科学部
- 宮垣友洋 (1995) 豊岡市で採集した蝶・トンボ, IRATSUME 19:26-34.
- 二宋誠治 (1991) 兵庫県北部地方のトンボ相調査会第3回晩秋, gracile 45:49-51.
- 青木典司 (1991) 兵庫県北部地方のトンボ相調査会第5回夏, gracile 46:33-37.

但馬むしの会の年会費は3000円です。

会費未納の会員は速やかに

お支払いください。

また、本誌に寄稿された方は、

原稿掲載料として

1000円をお支払いください。

24号に向けて、カンパも募ります。

郵便振替は、

01120-3-16245, 但馬むしの会, です。

但馬地方のカミキリムシ (V)

佐藤 邦夫

筆者は、1996年4月から1998年3月までの2年間朝来郡和田山町で仕事をする機会を得た。わずかな種類であるが、その間に採集したカミキリムシを報告する。

なお、学名などは保育社の「原色日本甲虫図鑑 (IV)」に従った。

採集記録

1. ウスバカミキリ *Megopsis sinica*
養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VII-30)
アベマキ生木の枯死部
2. ノコギリカミキリ *Prionus insularis*
養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VIII-11)
ヒノキ林の林床
3. ムナクボカミキリ *Arhopalus rusticus*
養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VIII-11)
灯火?
4. セスジヒメハナカミキリ *Pidonia amentata*
養父郡八鹿町米里 (2exs., 1996-V-21), 養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-V-7), 養父郡養父町大藪 (2exs., 1996-V-16)
コバノガマズミ花
5. フタオビノミハナカミキリ *Pidonia puziloi*
養父郡養父町大藪 (1ex., 1996-V-16), 朝来郡朝来町多々良木 (1ex., 1996-V-13)
コバノガマズミ花
6. ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes*
養父郡関宮町相地 (2exs., 1997-VI-5)
サワフタギ・コゴメウツギ花
7. アカハナカミキリ *Corymbia succedanea*
養父郡八鹿町国木 (1ex., 1996-VII-11; 2exs., 1997-VII-30), 養父郡八鹿町朝倉 (3exs., 1996-VII-25), 養父郡関宮町相地 (2exs., 1997-VIII-1)
ノリウツギ花, アカマツ倒木, 飛翔中
8. ヤツボシハナカミキリ *Leptura arcuata*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-1), 養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-V-7)
コバノガマズミ花, コナラ伐採木
9. クロハナカミキリ *Leptura aethiops*
養父郡八鹿町国木 (4exs., 1997-V-7)
コバノガマズミ花
10. ハネビロハナカミキリ *Leptura latipennis*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-V-28)
コナラ伐採木に産卵中
11. ヨツスジハナカミキリ *Leptura ochraceofasciata*
養父郡養父町大藪 (1ex., 1997-VI-17), 養父郡大屋町大杉 (1ex., 1996-VII-22), 養父郡関宮町相地 (2exs., 1997-VIII-1)
ノリウツギ花, アカマツ伐採木, 飛翔中
12. オオヨツスジハナカミキリ *Megaleptura regalis*
養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VIII-1; 1ex., 1997-VIII-3)
アカマツ倒木, 葉上
13. ニンフハナカミキリ *Parastrangalis nymphula*
養父郡関宮町相地 (1ex., 1997-VI-5)
サワフタギ花
14. アオスジカミキリ *Xystrocera globosa*
養父郡大屋町大屋市場 (1ex., 1996-VII-22)
灯火?
15. ヒメスギカミキリ *Palaeocallidium rufipenne*
養父郡八鹿町米里 (5exs., 1996-V-21)
スギ立枯
16. ムネマダトラカミキリ *Xylotrechus grayii*
養父郡八鹿町岩崎 (3exs., 1996-VI-15)
ネジキ伐採木
17. ウスイロトラカミキリ *Xylotrechus cuneipennis*
養父郡八鹿町岩崎 (2exs., 1996-VI-13; 3exs., 1996-VI-15), 養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VII-30), 養父郡関宮町相地 (2exs., 1997-VIII-1)
コナラ立枯, コナラ・アベマキ伐採木
18. クビアカトラカミキリ *Xylotrechus rufilius*
養父郡八鹿町岩崎 (2exs., 1996-VI-1; 2exs., 1996-VI-13; 4exs., 1996-VI-15)
コナラ・アベマキ伐採木
19. ニイジマトラカミキリ *Xylotrechus emaciatus*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VII-2)
コナラ伐採木

20. シラケトラカミキリ *Clytus melaenus*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-13; 4exs., 1996-VI-15)
コナラ・アベマキ伐採木
21. キンケトラカミキリ *Clytus auripilis*
養父郡八鹿町今滝寺 (2exs., 1998-IV-14; 1ex., 1998-IV-16)
枯枝 (樹種不明) より羽化脱出
22. エグリトラカミキリ *Chlorophorus japonicus*
養父郡八鹿町岩崎 (2exs., 1996-VI-13; 1ex., 1996-VI-15)
コナラ・アベマキ伐採木
23. ヒメクロトラカミキリ *Rhaphuma diminuta*
養父郡養父町大藪 (1ex., 1996-V-16)
コバノガマズ米花
24. キイロトラカミキリ *Grammographus notabilis*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-15)
コナラ伐採木
25. トゲヒゲトラカミキリ *Demonax transilis*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-15), 養父郡養父町大藪 (5exs., 1996-V-16)
コバノガマズ米花, ネジキ伐採木に産卵中
26. ベニカミキリ *Purpuricenus temminckii*
養父郡八鹿町岩崎 (2exs., 1996-VI-13; 2exs., 1996-VI-15), 養父郡養父町谷間地 (1ex., 1996-V-27)
モウソウチク切株, 飛翔中
27. ホタルカミキリ *Dere thoracica*
養父郡八鹿町岩崎 (4exs., 1996-V-27; 3exs., 1996-VII-2)
ネムノキ伐採木
28. シロオビゴマフカミキリ *Falsomesosella gracilior*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-V-27)
伐採枝 (樹種不明)
29. ゴマフカミキリ *Mesosa japonica*
養父郡八鹿町米里 (2exs., 1996-V-21), 養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-V-27; 1ex., 1996-VI-1)
コナラ伐採木
30. ナガゴマフカミキリ *Mesosa longipennis*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-15), 養父郡八鹿町国木 (1ex., 1997-VIII-3), 養父郡関宮町相地 (2exs., 1997-VIII-1)
コナラ立枯, コナラ伐採木
31. タテスジゴマフカミキリ *Mesosa senilis*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-V-31)
コナラ伐採木
32. ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopodina*
養父郡八鹿町今滝寺 (1ex., 1998-IV-20)
枯枝 (樹種不明) より羽化脱出
33. アトモンサビカミキリ *Pterolophia granulata*
養父郡八鹿町米里 (1ex., 1996-V-21)
コナラ伐採木
34. セミスジコブヒゲカミキリ *Rhodopina lewisii*
養父郡八鹿町八木 (1ex., 1996-VI-14)
シラカシ枯枝
35. ラミーカミキリ *Paraglenea fortunei*
養父郡八鹿町三谷 (1ex., 1996-VII-2)
飛翔中
36. シラホシカミキリ *Glenea relictia*
養父郡八鹿町岩崎 (1ex., 1996-VI-15)
飛翔中
37. ヘリグロリングカミキリ *Nupserha marginella*
養父郡養父町大藪 (1ex., 1997-VI-17), 養父郡関宮町万久里 (1ex., 1997-VI-17)
飛翔中

連絡誌の情報を募集しています

連絡誌“混蟲ずかん”は、年に数回発行されています。
“混蟲ずかん”では、誌面の充実を図るため、会員の皆さんから情報を募集しています。
メモ書き程度の通信でOKです。内容は、身近な虫の情報
(モンシロチョウの初見日、セミの初鳴き日・終鳴き日など)、
採集情報、近況、意見、新刊紹介、新聞記事の切り抜きなど、何でも結構です。
随時、受け付けています。

とくに、但馬地方の昆虫に関する情報を求めています。
送付先・連絡先は、事務局 (〒669-6801 美方郡温泉町井土932-10, 黒井和之) まで。

和田山町で採集された カトウツケオグモ

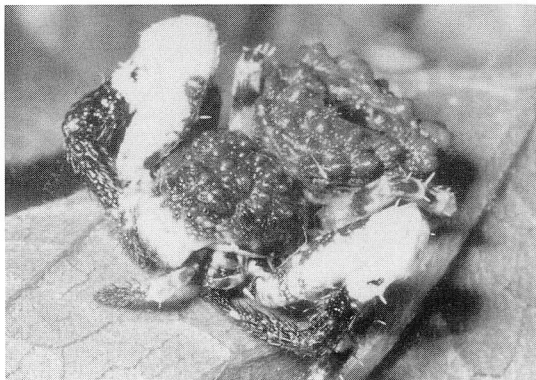
山本 一幸

全国的にも採集例が少ない、カニグモ科の珍種カトウツケオグモ *Phrynarachne katoii* が朝来郡和田山町で採集されたので、ここに報告する。但馬における記録として2例目にあたり（本庄・山本, 1990）, 1976年4月2日に美方郡浜坂町久斗山で幼生が採集（山本, 1977）されてから、実に22年ぶりである。

1♀, 兵庫県朝来郡和田山町秋葉台4区, 1998-IV-2, 稲津和之採集

採集した稲津氏によれば、午後2時ごろ、自宅近くの雑木林の遊歩道を散策中にオトコエシの花の上で脚を縮めてじっとしているところを発見、その姿は鳥の糞のようであったとのことである。

筆者のもとに生きたまま郵送していただき、しばらく飼育を試みた。縦18cm, 横13cm, 高さ15cmの水槽内にイノコズチとイタドリの葉と茎を小ピンにさして足場を作り、クモを入れて行動を観察した。その結果、日中は葉の上などに足を縮めてじっとしている（写真）が、夜間になると植物の上や水槽の壁面などを徘徊する。その行動は、敏捷性に乏しく、餌として小型のガをピンセットでつまんでクモに近づけると、1・2脚を左右に広げて威嚇するようなポーズをするが、さらに接近させると後退し、葉裏などに身を隠して、積極的にガを捕らえようとすることはなかった。水槽内に小型のガを絶えず3個体ほど放っておいたが、捕食した形跡はなかった。約2週間飼育を継続したが、



葉の上でじっとしているカトウツケオグモ

その間に水分の補給だけで捕食は観察されず、腹部の萎縮などが認められたので標本にして観察を終了した。

未筆ながら、成熟した本種の行動を観察する機会を与えて下さった稲津和之氏に、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

参考文献

八木沼健夫 (1986) 原色日本クモ類図鑑. 保育社, 大阪.
本庄四郎・山本一幸 (1990) 但馬のクモ類目録,

IRATSUME13・14: 1-33.

山本一幸 (1977) 浜坂産真正蜘蛛類について,
*Aculeatus*10:5-10.

来日岳のコルリクワガタ追加記録

谷角 素彦

1998年は暖冬の影響で季節の進行が早く、春にその傾向が顕著であった。大阪府茨木市でモンシロチョウを2月27日に目撃したことなどは、その好例である。この現象は、但馬地方でも同様であった。4月16日、ギフチョウを求めて城崎町の大師山〜来日岳に出かけたが、スプリングエフェメラルの季節はすでに終了しており、図らずも活動中のコルリクワガタ *Platycerus acuticollis* を採集した。なお、当地において本種は、永幡 (1993) により1♀が記録されているが、追加例として報告しておく。

1♂, 兵庫県城崎郡城崎町来日岳（標高550m付近）, 1998-IV-16, 筆者採集

来日岳の山頂に生育しているブナは、新芽の状態を過ぎて若葉を伸ばしていた。青空を背景に、ブナなどの若葉に飛来するコルリクワガタの姿が確認できた。長竿を持っていた同行の田花雅一氏は本種を10頭以上採集しているが、いずれも♂であった。

参考文献

永幡嘉之 (1993) 来日岳でコルリクワガタを採集,
IRATSUME17: 78.

《IRATSUME 投稿規定》

1. 原稿は横書き原稿用紙に、わかりやすく書いてください。
2. 報文には「～である」調を用い、句読点もはっきりさせてください。
3. ワープロで原稿作成する場合、句読点にピリオドとコンマを使用してください。また、印字したものとフロッピーディスクの両方をお送りください。
4. 種名は和名で記しますが、記録報告の場合には学名も表記してください。その際、学名は必要最小限にとどめてください。
5. 分類の紛らわしい種や貴重な記録には、標本写真を付けてください。標本撮影は編集事務局でも行えますので、ご利用ください。
6. 採集データは、次のような形式で記してください。
1♂2♀♀, 兵庫県美方郡温泉町青下, 1989-V-15, 黒井和之採集。
7. 参考文献は、次のような形式で記してください。
佐藤邦夫 (1987) 但馬地方のカミキリムシ, IRATSUME11:72-90.
8. 付図や表組は、そのまま使える完全版下として仕上げてください。IRATSUMEの誌面にうまく収まるよう工夫してください。
9. 原稿は十分に推敲・校正してから、ご投稿ください。とくに、わかりにくい表現や無駄な表現がないか、主語と述語がはっきりしているか、数字や学名のスペルに誤りがないかなどについて、チェックしてください。
10. 誤同定やデータに大きな誤りを含んでいる原稿は、掲載をお断りする場合があります。
11. 寄稿者は掲載誌3部を受け取り、原稿掲載料として1000円を事務局（郵便振替：01120-3-16245, 但馬むしの会）に支払います。
12. 原稿についてのお問い合わせは、谷角素彦まで。

【編集後記】

◇今でも時々、但馬むしの会を結成した当時を思い出すことがあります。あれから四半世紀が経とうとしています。なぜ同好会をつくったかと言えば、故郷の但馬と係わるための理由づけがほしかったことや、但馬の昆虫を仲間と楽しみながら調べたかったことのほか、何と言っても、緑濃い山野で昆虫を追い求めるときのワクワクする感覚が最高だったからです。

当初は、情報や知識は乏しくてもフィールドへよく出かけ、充実したシーズンを送っていました。いつの頃からか、採集・調査に出かける回数がめっきり減ってしまいました。確かに昆虫に関する知識や経験は以前に比べると身についたし、会誌も立派なものが出るようになりました。ところが、最近しばしば感じる空虚さは、いったい何に起因しているのでしょうか。

現在の我々に必要なのは、まずはフィールドに出て、昆虫との触れ合いを楽しむこと。もちろん、自分なりのテーマをもつことも大切です。次に、同定力を高める努力も不可欠です。そして、得られたデータを原稿にする習慣をつけることです。各人がこれらの点をどれだけ頑張れるかで、会の今後が決まるでしょう。（谷角）

◇今年は久しぶりに予定どおり発行することができました。最近の原稿は大半がフロッピーでいただいておりますので、編集作業が格段に楽に、早くなりました。しかしその反面、内容をじっくり吟味しながらの編集作業ではなくなっているようにも感じます。

手書き原稿を入力する際、機械的に入力しようとするのですが、どうしても一度文章を自分の中に取り込んでからキーボードに向かいます。そのとき、気になる部分のはっきりすることがよくあります。

電子入稿の場合も、原稿をじっくり読むよう、心がけたいと思います。（石田）

◇年々、フィールドが次々に変わっていきます。ひとつのものに興味が長続きせず、コロコロと対象を変えるのは悪い癖ですが、今は熱帯での季節の変化にとっても関心があります。

しかし、時折日本海に面した山々に足を運ぶと、言いようのない懐かしさを感じます。津軽半島でも、山形でも、新潟でも。それはやはり、浜坂の海岸や久斗山と環境が似ていて、但馬に通った時代を思い起こさせるからでしょう。（永幡）

IRATSUME No.23

1999年5月25日発行

発行者：但馬むしの会

〒669-6801 兵庫県美方郡温泉町

黒井和之方

編集者：谷角素彦・石田達也・永幡嘉之

但馬むしの会会則

1. この会は、但馬むしの会と称する。
2. この会は、但馬地方の昆虫研究（昆虫相の解明等），および
会員相互の親睦をはかることを目的とする。
3. この会は、その目的を果たすために次のことをする。
 - (1) 会誌 IRATSUME（年1回）の発行
 - (2) 連絡誌 混蟲ずかん（年数回）の発行
 - (3) 採集会などの催し
4. この会は、昆虫に興味をもち、会の目的に賛同する人は誰でも
入会できる。
5. 会員は、会を維持するため、年額（3000円）を負担しなければ
ならない。
6. 会員は、会誌などの配布を受け、またこれに投稿することがで
き、催しに参加することができる。ただし、会費滞納が2か年
以上継続し、通知しても連絡のないときは自然退会とみなす。
7. この会を運営していくため、本部に事務局をおき、会の代表と
する。
8. 総会は年1回とし、役員改選、会則の改正など、会の運営上の
重要事項を審議する。議決は、出席者の過半数の賛成を必要と
する。
9. この会の会計年度は、暦年とする。

